

Workday AI

Product Summary

August 18, 2026



Contents

エージェント.....	3
Agent System of Record.....	3
エージェント管理.....	3
外部エージェント.....	14
エージェントのセキュリティとコンプライアンス.....	20
Agent Gateway.....	26
Agent Marketplace.....	30
概念: Agent Marketplace.....	30
概念: Workday Marketplace でのエージェント リスト.....	31
Workday 構築エージェント.....	31
BP 最適化エージェント.....	31
給与管理エージェント.....	39
Sana セルフサービス エージェント.....	48
Sana for Workday.....	84
概念: Sana ワークスペース.....	84
ステップ: Sana for Workday の設定.....	86
AI 管理者のセキュリティ権限の設定.....	88
プラットフォーム使用状況コンソール.....	92
プラットフォーム使用状況コンソールのセキュリティの設定.....	92
概念: プラットフォーム使用状況コンソール.....	92
AI データ提供.....	94
ステップ: AI 機能データ提供の通知の設定.....	94
MSA カスタマー向けの Innovation Services 機能および AI データの提供を有効化.....	95
汎用メイン サブスクリプション契約のお客様に対する Workday AI データの提供の管理.....	96
概念: 汎用メイン サブスクリプション契約の顧客に対する Workday AI.....	97
参考: Workday AI データの提供.....	99
FAQ: Innovation Services 追加条項 (ISA) からユニバーサル メイン サブスクリプション契約 (UMSA) への移行について.....	107

エージェント

Agent System of Record

エージェント管理

設定の考慮事項: Agent System of Record

このトピックを、Agent System of Record (エージェント システム オブ レコード) の設定と使用をプランニング際の決定に役立てることができます。以下について説明します。

- 設定する理由
- Workday のその他の部分への適合
- 下流への影響と製品間インタラクション
- セキュリティ要件とビジネス プロセス設定
- 実装前に考慮しておく質問事項と制限事項

設定の全詳細については、タスクの詳細な説明を参照してください。

機能の概要

Workday Agent System of Record (ASOR) は、以下の目的に使用できる単一のソリューションを提供することで、組織のデジタル エージェントワークフォースを管理できるようにする一元化されたプラットフォームです。

- さまざまなシステムにわたって、範囲な AI エージェントを安全に検出、追加、登録、設定、監視、管理します。
- エージェントのガバナンス、セキュリティ、監査に単一のコントロール センターを活用することで、管理間接費を削減し、セキュリティ リスクを軽減します。
- エージェントのオブリゲーション可能性、使用状況、パフォーマンスに関するデータインサイトを表示し、エージェントの価値と影響を分析して実証できます。

以下のエージェント タイプは、開発や実行の場所に関係なく、エージェント管理ハブで管理できます。

- Workday 構築エージェント (1P)
- パートナー構築エージェント
- 自社構築エージェント (3P)

ASOR では、**Agent Management Hub** がAI エージェントを登録、設定、監視、管理できる中心的な事業地です。エージェントとは、大規模言語モデル (LLM) を使用して理由を付け、アクションを実行するシステムです。

ASOR のすべてのエージェントにはエージェント定義があります。この定義は、エージェント コードの具体的なマニフェストを提供し、管理者にエージェントとは何か、そしてエージェントが実行できることについて透明性を高めます。Workdayの ASOR の各エージェント定義には、以下が含まれます。

- エージェント名: エージェントの名前。
- エージェントの説明: エージェントの簡単な説明。

- スキル: エージェントが実行できるタスクまたはアクティビティ。
 - 実行モード: エージェント スキルには以下の 2 つの実行モードがサポートされています。
 - アンビエント モード: エージェントが自身としてタスクを実行し、セキュリティが自身の権限を使用して評価される。
 - 委任モード: エージェントが人間の代理でタスクを実行し、その際、セキュリティが従業員の権限を使用して評価されます。
 - ツール: エージェントがスキルを実行する際に使用できるリソース。Workdayと連携するエージェントの場合、ツールはWorkday API になります。
 - リソース: ツールが使用するAPIのタイプ。例: REST、SOAP、Graph、WQL。

業務上のメリット

- 管理効率の向上: ガバナンスと監査のための単一のコントロール センターが提供され、エージェントを大規模に安全に導入できます。
- 業務の透明性: エージェントのアクティビティ、使用状況、パフォーマンスに関するインサイトを提供し、AIワークフォースの価値と影響を分析するのに役立ちます。
- システムの安全性: システム パフォーマンスを保護すると同時に、エージェントが標準化された認証と監査により安全に実行されるようにします。
- エージェントの相互運用能力: エージェントがシステム全体で連携して、作業を完了ようにします。

エージェント ライフサイクル全体でのユース ケース

ASOR およびエージェント管理ハブを使用すると、以下の 5 つのフェーズで構成されるエージェント ライフサイクル全体でエージェントを管理できます。

- 定義: エージェントのエージェント定義は、エージェント管理ハブのエージェント プロファイル ページで確認できます。外部エージェントの場合は、API 経由でエージェントの定義を指定します。
- 登録: エージェントの使用を開始するには、まずエージェント管理ハブに登録して、設定とアクティブ化のために準備する必要があります。本稼働環境の Workday 構築エージェントに登録するには、以下の要件を満たす必要があります。
 - uMSA
 - [Workday フレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)
 - Workday 製品の権利
- 設定: エージェントを設定する際に、エージェントが使用するスキルとアクセスできるユーザーを指定できます。
- アクティブ化: エージェントに登録して設定したら、エージェントをアクティブ化できます。これにより、ユーザーは設定したセキュリティ権限に基づいてエージェントとやり取りできるようになります。
- 非アクティブ化: エージェントが不要になった場合、エージェントを非アクティブ化することができます。これにより、エージェントはユーザーに表示されなくなりますが、エージェント管理ハブでアクセス可能な状態が維持され、必要に応じて将来再度アクティブ化することができます。

推奨事項

- エージェントの設定時に **"View Security for Agent Skill"** レポートをレビューします。Workday レポートを使用して、エージェントが使用できるドメインおよびビジネス プロセス セキュリティ ポリシー設定を明らかにします。Workday 時には、まずエージェントにアクセスできるセキュリティ グループ ("使用可能") が評価され、次にツールにアクセスできるセキュリティ グループ (API およびリソースに関するドメインまたは BP ポリシー) が評価されます。
- 監査証跡のレビュー: 定期的に監査ログを調べて、エージェント アクションを確認します。このログでは、単独で実行するアンビエント エージェントと、特定のユーザーの代わりに動作する委任エージェントを明確に区別します。

要件

ASOR にアクセスするために、追加の SKU は必要ありません。

本稼働テナントで Agent System of Record にエージェントを登録して使用するには、Workday アカウントチームが以下を行う必要があります。

- [ユニバーサル メイン サービス契約 \(UMSA\)](#)へのオプトイン。
- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)にオプトインします。

注：フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできなくなります。UMSA は、Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントに必須です。UMSA は、自己構築エージェントの非本稼働テナントでは必須ありません。

制限事項

- エージェントのプロキシと委任: Workday エージェントとのインタラクションはプロキシまたは委任できません。
- キー管理: ASOR が認証情報ストアでのクライアント認証情報(秘密鍵)の作成と安全な保管を処理しますが、このキーペアを利用する OAuth 2.0 トークン交換プロセスがセキュリティ環境で上位目標を確認する必要があります。
- サンドボックス テナントでの使用状況分析: 概要ページのエージェントの使用状況分析については、サンドボックスのリフレッシュによって過去の週の使用状況アクティビティが消去されることはありません。

ASOR セキュリティ

ドメイン	考慮事項
エージェント コンプライアンス	エージェントのコンプライアンスに必須レポートとデータへのアクセス権を付与します。
エージェント管理ハブ	エージェント管理ハブへのアクセス権を付与します。これは、すべてのエージェントを表示および管理するための一元化されたハブ。
Manage: Agents	ASOR の設定、アクティブ化、非アクティブ化など、エージェントを管理するためのタスクへのアクセス権を付与します。
Reports: Agent Reporting	エージェント レベル レポート用の分析とレポート データ ソースおよびフィルタを表示するためのアクセス権を付与します。
Reports: AI Agent Security	エージェントのセキュリティ情報に関するレポートへのアクセス権を付与します。例: "AI エージェントのユーザー監査証跡の表示"レポート。
Setup: Agents	ASOR のエージェントのタスクとアクティビティを設定するためのアクセス権を付与します。

エージェント セキュリティ

エージェントを設定する際に、各委任実行モードのスキルについて、"使用可能" 列にセキュリティ グループを指定することで、エージェントとやり取りするためのアクセス権を持つユーザーを指定できます。例: "Employee as Self"を指定すると、エージェントとやり取りする社員はスキルを使用できるようになります。ユーザーがいずれかのスキルに関してセキュリティ グループに含まれている限り、そのユーザーはエージェントとやり取りするためのアクセス権を持ちます。

注：エージェントインタラクションセキュリティ権限は、ツール実行権限とは別個のものです。"使用可能"プロンプトに表示されるセキュリティグループと、"**View Security for Agent Skill**"レポートを使用して、エージェントが実行可能なツールの権限を持つセキュリティグループとの整合性を評価することを検討してください。このレポートには、エージェントのツール API と、それぞれのドメインまたはビジネスプロセスのセキュリティポリシーおよび権限に関する詳細情報が表示されます。エージェントインタラクションセキュリティグループは、APIポリシーのセキュリティグループと 1 対 1 に一致する必要はありません。ツールを正常に実行するには、ユーザーがエージェントスキルのセキュリティグループと、APIセキュリティポリシーのセキュリティグループのメンバーである必要があります。Workdayの実行時に、エージェントへのユーザーアクセスと、エージェントがツールとして実行している API へのユーザーアクセスの両方が評価されます。

例:

エージェント	使用可能セキュリティグループ	ドメイン セキュリティポリシー セキュリティグループ設定	ツール実行に成功
セルフサービス エージェント	Employee as Self	Employee as Self	はい
セルフサービス エージェント	Employee as Self	マネージャ	いいえ

注：アンビエント実行モードのスキルでは、人間のユーザーインタラクションなしでアクションを実行するため、インタラクションへのアクセスは不要です。通常はスケジュールに基づいて、またはトリガを設定します。

"System"業務分野の"*Domains: Workday Accounts*"ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の)"すべての AI エージェント アカウント"レポートにアクセスすると、テナント内のすべてのエージェント アカウントを表示できます。レポートで"**Workday**アカウント"関連アクションをクリックすると、監査証跡を表示できます。

エージェント システム ユーザー (ASU) アカウントを使用すると、Workdayでエージェントを保護および管理できます。"エージェントの設定"タスクを完了すると、Workdayの ASU が自動的に生成されます。"**All AI Agent Accounts**"タスク(セキュリティ保護された (されている、済の)"System"業務分野の"*Workday Accounts*"ドメイン) を使用して、エージェントの ASU アカウントを表示できます。"すべての**Workday**アカウント"タスクを使用して、AI エージェント アカウントを表示することもできます。

エージェント開発者は、ASU を活用して、Agent Gateway を介してWorkdayデータとやり取りできます。

レポート

ハブの"概要"セクションでは、以下のレポート (セキュリティ保護された (されている、済の)"*Reports: Agent Reporting*"ドメイン) およびタスク (セキュリティ保護された (されている、済の)"*Manage: Agents*"ドメイン) へのアクセスが可能です。

- "アクティブなエージェント"レポート
- エージェントのアクティブ化タスク
- エージェントの設定タスク
- エージェントタスクの非アクティブ化
- "**Total Agent Sessions Over Time**"レポート (Workday 構築のエージェントでのみ使用可能)
- "エージェント セッション合計数" レポート (Workday 構築のエージェントでのみ使用可能)
- "一意のユーザーの合計" レポート (Workday 構築のエージェントでのみ使用可能)

"エージェント レジストリ" セクションには、登録済エージェントとそのステータス、Workdayの管理者ユーザーが最後に設定を更新した日付が表示されます。

エージェント名をクリックすると、エージェントのプロファイルやエージェントが利用可能なスキル、以下のエージェント分析レポート (セキュリティ保護された (されている、済の)) "Reports: Agent Reporting "ドメインが構築したエージェントでのみ利用可能) が表示されます。

- エージェント セッション
- スキル インタクション
- スキル インタクション合計数の推移
- エージェントの一意のユーザーの合計数
- スキルを使用した一意のユーザーの合計数

"未登録のWorkdayエージェント"セクションには、"未登録のWorkdayエージェントの検索" レポート ("Agent Management Hub"ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の)) が表示されます。このレポートでは、登録可能な Workday 構築のエージェントを確認できます。

エージェントのセキュリティ、コンプライアンス、監査に関する以下のレポートにアクセスできます。

- エージェントの入力および出力リクエストの詳細("Agent Compliance " ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の)、Workday 構築のエージェントでのみ使用可能)
- すべての AI エージェント アカウント(セキュリティ保護された (されている、済の))は " Workday Accounts "ドメイン)
- エージェントの入力および出力レポートの生成("Agent Compliance " ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の)、Workday 構築のエージェントでのみ利用可能)
- 登録エージェントの入力および出力レポート("Agent Compliance " ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の)、Workday 構築のエージェントでのみ使用可能)
- AI エージェントのユーザー監査証跡の表示(セキュリティ保護された (されている、済の))は "Reports: AI Agent Security"ドメイン)
- エージェント スキルのセキュリティの表示(" Security Administration"ドメインおよび " Manage: Agents "ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の))

追加エージェント レポートについては、以下のデータ ソースにアクセスできます。

- すべてのエージェント定義(セキュリティ保護された (されている、済の))は "Reports: Agent Reporting "ドメイン) は、すべての登録済および未登録のエージェント定義に関するレポート用のフィールドを提供します。
- カスタム レポートで、エージェント登録を分析するために使用できる"**All Agent Registrations**"データ ソース(セキュリティ保護された (されている、済の))は "Reports: Agent Reporting"ドメイン)。
- "**Agent Input and Output Details**"データ ソース("Agent Compliance "ドメインに対してセキュリティ保護された (されている、済の))、過去 30 日間のエージェントの入力および出力のインタラクションを表示するために使用できます。

過去 30 日間の使用状況分析データを提供する以下のデータ ソース (セキュリティ保護された (されている、済の))は "Reports: Agent Reporting " ドメイン) を活用することもできます。

- 日別のエージェント セッション
- エージェント スキル インタクション
- エージェント スキル インタクション (日別)
- スキル別のエージェント固有のユーザー

関連性のある機能

Workday が提供する Touchpoints Kit とリソースは、テナント内の構成の関係を理解するのに役立ちます。詳細は、Workday Community の [Workday Touchpoints Kit Overview](#) を参照してください。

Agent System of Record (エージェント システム オブ レコード) の設定

Prerequisites

セキュリティ: "System" 業務分野の "Security Configuration" ドメイン ASOR セキュリティ ドメインの設定に必要です。

Context

Agent System of Record (ASOR) を使用して、組織のデジタルワークフォースを管理できます。テナントで ASOR を設定するには、以下を行う必要があります。

- "ASOR"業務分野を有効にします。
- ASOR タスクとレポートに対してドメインセキュリティ ポリシーを設定します。

設定を移行する方法が現在ないため、各テナントで ASOR を設定する必要があります。

Steps

1. **"Maintain Functional Areas"** タスクにアクセスします。
"Agent System of Record"業務分野の"有効"チェックボックスをオンにします。
"OK" をクリックしてから "完了" をクリックします。
2. **"Activate Pending Security Policy Changes"** タスクにアクセスします。
コメントを入力して "OK" をクリックする。
"確認" チェックボックスをオンにし、"OK" をクリックします。
3. **"業務分野のドメイン セキュリティ ポリシー"** レポートにアクセスします。
"業務分野"プロンプトから、"*Agent System of Record*"を選択します。
以下のドメインの関連アクション メニューから、"**ドメイン セキュリティ ポリシー**" > "有効化"を選択します。
 - エージェント コンプライアンス
 - エージェント管理ハブ
 - *Manage: Agents*
 - *Reports: Agent Reporting*
 - *Setup: Agents*

"System"業務分野の"*Reports: AI Agent Security*"ドメインについて、このステップを繰り返します。

4. "Maintain Permissions for Security Group" タスクにアクセスします。

"管理" 操作を選択します。

"Source Security Group"プロンプトから、ASOR エージェント管理アクセス権をグラントセキュリティ グループを選択します。

Note: 現在、ASOR セキュリティ ポリシーには制約のないグループのみを設定できます。

"ドメイン セキュリティ ポリシー権限" タブで、以下のドメインセキュリティ ポリシーの表示権限および変更権限を指定します。

- エージェント コンプライアンス: エージェント コンプライアンスに必須レポートとデータへのアクセス権。
- エージェント管理ハブ: エージェント管理ハブへのアクセス権。すべてのエージェントを表示および管理するための一元化されたハブです。
- エージェントの管理: ASOR での設定、アクティブ化、非アクティブ化など、エージェントを管理するためのタスクにアクセスします。
- *Reports: Agent Reporting* : エージェント レベル レポート用の分析とレポート データ ソースおよびフィルタを表示するためのアクセス権。
- *Reports: AI Agent Security* : AI エージェントのセキュリティ情報に関するレポートへのアクセス権。例: "AI エージェントのユーザー監査証跡の表示"レポート。
- *Setup: Agents* : ASOR のエージェントの設定タスクとアクティビティにアクセス可能。

5. "Activate Pending Security Policy Changes" タスクにアクセスします。

コメントを入力して "OK" をクリックする。

"確認" チェックボックスをオンにし、"OK" をクリックします。

Workday 構築エージェントの登録と設定

Prerequisites

Note: 組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、本稼働テナントでエージェントを登録して使用するための追加の手順が必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできなくなります。UMSA は、Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本番テナントに必須です。UMSA は、自己構築エージェントの非本稼働テナントでは必須ありません。

- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)へのオプトイン。本稼働テナントでエージェントを登録し、使用する場合にのみ必須。
- [エージェント システム オブ レコードを設定します。](#)

セキュリティ: "Agent System of Record"業務分野の以下のドメイン:

- エージェント コンプライアンス
- エージェント管理ハブ
- *Manage: Agents*

- *Reports: Agent Reporting*
- *Setup: Agents*

セキュリティ: "System"業務分野の"Reports: AI Agent Security " ドメイン

Context

エージェント管理ハブを使用して、Workdayエージェントを登録、設定、アクティブ化、非アクティブ化できます。

Steps

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. "未登録のWorkdayエージェント" タブを選択します。
3. 登録するエージェントを "登録" をクリックします。
エージェントは、組織が取得した SKU にのみ登録できます。
4. "確認" チェックボックス ()をオンにし、 "OK"をクリックして登録を完了します。
Workdayが"エージェント レジストリ" タブに移動します。
5. "エージェント レジストリ" タブを選択し、エージェント名をクリックしてエージェントを設定します。
6. エージェントのプロファイル ビューから、 "エージェントの設定"をクリックします。
7. "ステータス" 列で、切替スライダー ()を有効にすることで、関連する各スキルが使用可能になります。
8. 有効にする "スキル"ごとに、そのスキル "" にアクセス権限を付与するセキュリティ グループを"使用可能"プロンプトに入力します。エージェントの"使用可能"プロンプトに追加されたセキュリティ グループは、エージェントのインタラクションポリシーを設定します。

Note: "使用可能"プロンプトで選択するセキュリティ グループには、エージェントのツールをセキュリティ保護するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーに対する権限も必要です。"View Security for Agent Skill"レポートを使用して、エージェントのセキュリティ設定を支援できます。このレポートには、エージェントのツール API と、それぞれのドメインまたはビジネス プロセスのセキュリティ ポリシーおよび権限に関する詳細情報が表示されます。Workday実行時に、エージェントへのユーザー アクセスと、エージェントがツールとして実行している API へのユーザー アクセスの両方が評価されます。

9. "アクティブ化"をクリックします。任意で、この設定を保存して戻すこともできます。
エージェント設定はいつでも更新できます。エージェントをアクティブ化すると、エージェントの ASU も自動的にアクティブ化されます。
- 10.(任意) エージェントの使用が完了したら、 "非アクティブ化"をクリックしてエージェントをオフにすることができます。
エージェント管理ハブでは、いつでもエージェントのアクティブ化、非アクティブ化、再アクティブ化が可能です。エージェントを非アクティブ化すると、そのエージェントの ASU も自動的に非アクティブになります。

参考: **ASOR API**エージェント定義のサンプル

このAPIの最初のセクションで、エージェントに関する基本情報を定義します。

```
{
  "name": "Change Business Title Agent",
  "description": "A Workday agent for changing a business title with Agent Gateway",
  "provider": {
    "id": "Provider=SELF-BUILT"
  },
  "url": "https://changetitleagent.com",
```

```

"platform": {
  "id": "Platform=GOOGLE_AGENTSPEACE"
},
"skills": [
  {
    "description": "This skill gets worker information and changes a
business title.",
    "id": "changeTitle_1",
    "inputModes": [
      {
        "type": "application/json"
      }
    ],
    "name": "Change Title",
    "outputModes": [
      {
        "type": "application/json"
      }
    ]
  }
],
"workdayConfig": [
  {
    "workdayResources": [
      {
        "description": "Change Business Title",
        "tool_name": "changeBusinessTitle",
        "agent_resource": {
          "id": "c2fffb30053964fbfa7a46dcfa577adb1"
        }
      },
      {
        "description": "Get Workers",
        "tool_name": "getWorkers",
        "agent_resource": {
          "id": "94a39e71541b468fa895955508287acd"
        }
      },
      {
        "description": "Internal Auth Check",
        "tool_name": "internalAuthCheck",
        "agent_resource": {
          "id": "6bbfa713d3851000081920672a0f0009"
        }
      }
    ],
    "executionMode": {
      "id": "Mode=Delegate"
    },
    "skillId": "changeTitle_1"
  }
],
"capabilities": {
  "stateTransitionHistory": false,
  "streaming": false,
  "pushNotifications": false
},
"supportsAuthenticatedExtendedCard": false,
"version": "v1"
}

```

このAPIの2番目のセクションは任意です。これには、このエージェントの一部としてどのAPIが呼び出されるかなど、Workday固有の情報が含まれます。

```
{
  "workdayResources": [
    {
      "description": "Change Business Title",
      "tool_name": "changeBusinessTitle",
      "agent_resource": {
        "id": "c2fffb30053964fbfa7a46dcfa577adb1"
      }
    },
    {
      "description": "Get Workers",
      "tool_name": "getWorkers",
      "agent_resource": {
        "id": "94a39e71541b468fa895955508287acd"
      }
    },
    {
      "description": "Internal Auth Check",
      "tool_name": "internalAuthCheck",
      "agent_resource": {
        "id": "6bbfa713d3851000081920672a0f0009"
      }
    }
  ],
  "executionMode": {
    "id": "Mode=Delegate"
  },
  "skillId": "changeTitle_1"
}
```

各スキルには複数のツールを設定できます。各ツールは、個々のWorkdayリソースを参照します。これらのリソースは、リソースのWorkday ID (WID) を使用して指定できます。

Sample Response

API経由でエージェントを正常に登録すると、JSON回答があります。

```
{
  "version": "v1",
  "provider": {
    "descriptor": "Self-Built",
    "id": "9030a823ae1a10002d624e2d637e0000"
  },
  "skills": [
    {
      "inputModes": [
        {
          "type": "application/json"
        }
      ],
      "id": "changeTitle_1",
      "description": "This skill gets worker information and changes a business title.",
      "name": "Change Title",
      "outputModes": [
        {

```

```

        "type": "application/json"
      }
    ]
  },
  "url": "https://changetitleagent.com",
  "description": "A Workday agent for changing a business title with Agent Gateway",
  "capabilities": {
    "pushNotifications": false,
    "stateTransitionHistory": false,
    "streaming": false
  },
  "workdayConfig": [
    {
      "executionMode": {
        "descriptor": "Delegate",
        "id": "d785eba56e9c100035d336a043ff0000"
      },
      "skillId": "changeTitle_1",
      "workdayResources": [
        {
          "description": "Internal Auth Check",
          "tool_name": "internalAuthCheck",
          "agent_resource": {
            "id": "6bbfa713d3851000081920672a0f0009",
            "descriptor": "trident/userAuth/checkAuth (GET) (v1 - )"
          }
        },
        {
          "agent_resource": {
            "id": "c2ffb30053964fbfa7a46dcfa577adb1",
            "descriptor": "api/workers/businessTitleChanges/create (POST) (v1 - )"
          },
          "tool_name": "changeBusinessTitle",
          "description": "Change Business Title"
        },
        {
          "tool_name": "getWorkers",
          "agent_resource": {
            "id": "94a39e71541b468fa895955508287acd",
            "descriptor": "api/workers/view (GET) (v1 - )"
          },
          "description": "Get Workers"
        }
      ]
    }
  ],
  "platform": {
    "id": "b49b32cfdbe10002184b61535490000",
    "descriptor": "Google Agentspace",
    "reference_id": "GOOGLE_AGENTSSPACE"
  },
  "name": "Change Business Title Agent",
  "supportsAuthenticatedExtendedCard": false
}

```

AgentDefin率APIを使用してエージェント定義を取得する必要がある場合、回答には参照Workday ID が含まれます。

外部エージェント

外部エージェントの登録

前提条件

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできなくなります。UMSA は、Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本番テナントに必須です。UMSA は、自己構築エージェントの非本稼働テナントでは必須ありません。

[エージェント システム オブ レコードを設定します。](#)

セキュリティ:

- "Agent System of Record"業務分野の"Agent Management Hub"ドメインエージェントがWorkdayに登録されていることを検証するために必要です。
- "Agent System of Record"業務分野の"Manage Agents"ドメインアクティブ化とスキル設定に必要です。
- "System" 業務分野の "Set Up: Tenant Setup - Security" ドメイン登録に必要です。

コンテキスト

現在、ASOR API を使用する場合、Workdayで外部エージェントを登録および定義することのみが可能です。外部エージェントは、2 つのステップではなく、APIを使用して同時に定義および登録されます。任意のAPIクライアントを使用してAPIを呼び出すことができます。

トラブルシューティングについては、[Studio の ASOR v1.2 APIドキュメント](#)および[ASOR JSON Swap のドキュメント サンプル](#)を参照してください。

登録エンドポイント:

- **REST API Endpoint:** <https://us.agent.workday.com/asor/v1/agentDefinition>.
- **Token Endpoint:** https://us.agent.workday.com/auth/oauth2/<Tenant_Name>/token
- **認証エンドポイント:** https://us.agent.workday.com/auth/authorize/<Tenant_Name>?response_type=code&Client_id=<client_id>&state=test3pagent1&redirect_ris=<redirect_ris>

米国以外の地域でのコース ステータスに関する情報については、Agent Gateway のドキュメントを参照してください。 [参考: エージェント ゲートウェイの地域別の対応可否](#) -

認証オプション:

外部エージェントを登録するには、ASOR API呼び出しにアクセス トークンが必要です。以下は、ASOR API呼び出しを実行するためのトークンを取得するためのさまざまなオプションです。

オプション 1: APIクライアントの手動認証

1. "Register API Client" タスクにアクセスします。

- クライアント名: エージェントの一意的識別名を入力します。エージェントを管理しやすくするため、エージェントごとに個別のクライアントを使用することをお勧めします。
- クライアント付与タイプ: *Authorization Code Grant*。
- アクセス トークン タイプ: ベアラー
- リダイレクト URI: 認証後にユーザーをリダイレクトする URL を入力します。
- 範囲 (業務分野): *Agent System of Record*。
- **Workday** 所有の範囲を含める: このチェックボックスをオンにします。

2. "クライアント ID"と"クライアント シークレット" の値をコピーして保存します。これらを使用して、定義APIを呼び出すためのアクセス トークンを取得できます。

3. この URL を新しいウィンドウに貼り付けます。API を呼び出すために使用できるコードが添付された google.com にリダイレクトされます。

`https://us.agent.workday.com/auth/authorize/<Tenant_Name>?response_type=code&Client_id=<client_id>&state=test3page1&redirect_ris=<redirect_ris>`

4. 外部APIクライアント (例: Bluno) を使用して新しいリクエストを作成: `https://<tenanthost>/ccx/oauth2/<tenantName>/ トークン`

- 本文: *grain*
- Auth: Username = *<ClientID>*, Password = *<ClientSecret>*.
- これにより、ASOR エージェント定義APIを呼び出すために使用できるアクセス トークンとリフレッシュトークンが生成されます。
- 次を参考にして、このステップを完了させます。 [概念: 外部エージェント ASU の考慮事項](#)

Note: エージェントを登録するユーザーが ASOR APIを使用してエージェントを登録するには、"Agent System of Record"業務分野の "Setup: Agents"ドメインへのアクセス権が必要です。

オプション 2: 拡張機能を使用した認証

Workday Extend または Workday Orchestrate のユーザーは、Workday の開発者サイトからアクセス トークンを取得できます。

1. [Development.workday.com](https://development.workday.com)にアクセスし、にサインイン。
2. 右上にあるユーザー メニューをクリックします。メニューには現在の会社名が表示されます。
3. "テナント -> テナントへのサインイン"をクリックします。
4. 環境とテナントを選択し、"テナントへの接続"をクリックします。
5. テナントにサインインします。ASOR APIを使用してエージェントを登録するには、"Agent System of Record"業務分野の "Setup: Agents"ドメインへのアクセス権があるアカウントにサインイン必要があります。

ASOR APIを使用した外部エージェントの登録

前提条件:

- "Agent System of Record"業務分野の "Setup: Agents"ドメインにアクセスできるアカウントのアクセス トークン。
- 選択したAPIクライアント。
- セキュリティ: "System" 業務分野の以下のドメイン:
 - Custom Report Creation
 - Manage: All Custom Reports
 - Report Tag Management

コンテキスト:

外部エージェントを登録するには、以下を行う必要があります。

- カスタム レポートを作成して、エージェントのツール定義に含める関連Workday API (SOAP と REST) のWorkday識別子 (WID) を検索します。

- "エージェント プロバイダの表示" タスクを使用して、エージェント プロバイダを検索します。
- ASOR REST APIを呼び出してください

エージェント ツール定義の SOAP および REST ベースの WID の検索

1. "カスタム レポートの作成" タスクにアクセスします。
2. 以下を参考にして、レポートを作成します。

オプション	説明
レポート タイプ	"Advanced" を選択します。
パフォーマンスのために最適化する	このチェックボックスをオフにしてください。
データ ソース	SOAP API の場合は "Public Web Services" を選択し、REST API の場合は "All Public Service Operations" を選択します。

3. SOAP API の場合: "カスタム レポートの編集" ページのレポート定義の "列" タブで、以下の行を追加します。

ビジネス オブジェクト	フィールド
Web サービス	Web サービス
Web サービス オペレーション	Web サービス オペレーション名
Web サービス オペレーション	Workday ID

4. REST API の場合: "カスタム レポートの編集" ページのレポート定義の "列" タブで、以下の行を追加します。

ビジネス オブジェクト	フィールド
サービス オペレーション	サービス
サービス オペレーション	名称
サービス オペレーション	Workday ID

5. 保存して、レポートを実行します。

Note: API の WID を取得する際に、以下のリストを相互参照することもできます。

- [REST API WID](#)
- [アンビエント エージェントでは使用できない REST API](#)
- [Graph API WID](#)

エージェント プロバイダの検索

エージェント プロバイダとは、エージェントを構築したユーザーを参照するもので、エージェントのプロファイルの "構築者" フィールドに表示されます。

1. "エージェント プロバイダの表示" タスクにアクセスします (セキュリティ保護された (されている、済の) "Agent System of Record" 業務分野の "Setup: Agents" ドメイン)。
2. エージェント登録API呼び出しでは、このプロバイダ ID を使用します。

エージェント プラットフォームの検索

エージェント プラットフォームとは、エージェントが開発および実行する外部プラットフォームまたはシステムのことです。エージェント プロファイルの "組み込みのオン" フィールドに表示されます。

1. "エージェント プラットフォームの表示" タスクにアクセスします (セキュリティ保護された (されている、済の) "Agent System of Record" 業務分野の "Setup Agents" ドメイン)。
2. エージェント登録API呼び出しでプラットフォーム ID を使用します。

ASOR REST APIを呼び出してください

外部APIクライアントを使用してエージェントを登録する新しいリクエストを作成します (例: Brendt)。

次を参考にして、リクエストを作成します。

- **Endpoint:** <https://us.agent.workday.com/asor/v1/agentDefinition>
- 操作: POST
- 本文: [JSON API](#)ます。
- ヘッダー:
 - 認証: ベアラー <トークン>
 - wd-agent-tenant-alias:<your tenant name>

エージェント管理ハブ

エージェント定義がWorkdayに正常にロードされ、エージェント管理ハブで表示すると、登録されていることを確認できます。

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. **"Agent Agent"**をクリックして、エージェントのリストを表示します。
3. エージェントをクリックすると、そのエージェントの概要情報が表示されます。

次のステップ

Workdayでエージェントを設定します。

Related Information

Reference

参考: [ASOR APIエージェント定義のサンプル](#)

外部エージェントの設定

Prerequisites

[Agent System of Record \(エージェント システム オブ レコード\) の設定](#)

セキュリティ: "Agent System of Record"業務分野の以下のドメイン:

- エージェント コンプライアンス
- エージェント管理ハブ
- *Manage: Agents*
- *Reports: Agent Reporting*
- *Setup: Agents*

セキュリティ: "System"業務分野の "Reports: AI Agent Security "

アンビエント モード エージェントのみ:

- [../authentication-and-security/security-for-integrations/access-to-external-endpoints/hzp1471450668309.dita](https://us.agent.workday.com/..../authentication-and-security/security-for-integrations/access-to-external-endpoints/hzp1471450668309.dita).セキュリティ: "System" 業務分野の "Security Administration" ドメイン

Context

エージェント管理ハブを使用して、外部エージェントを設定できます。

Steps

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. "エージェント レジストリ" タブを選択し、エージェント名をクリックしてエージェントを設定します。

3. エージェントのプロファイル ビューから、"エージェントの設定"をクリックします。
4. "ステータス" 列で、切替スライダー () を有効にすることで、関連する各スキルが使用可能になります。
5. 使用可能な委任実行モードのスキルごとに、"使用可能"プロンプトをプロンプト入力し、エージェントについてそのスキルに対して追加するセキュリティ グループを決定します。

Note: "使用可能"プロンプトで選択するセキュリティ グループには、エージェントのツールをセキュリティ保護するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーに対する権限も必要です。"View Security for Agent Skill"レポートを使用して、エージェントのセキュリティ設定を支援できます。このレポートには、エージェントのツール API と、それぞれのドメインまたはビジネス プロセスのセキュリティ ポリシーおよび権限に関する詳細情報が表示されます。Workday実行時に、エージェントへのユーザー アクセスと、エージェントがツールとして実行している API へのユーザー アクセスの両方が評価されます。

6. "確認"チェックボックス () をクリックし、"OK"をクリックします。
 - a) スキルを委任する場合は、エージェントのコールバック エンドポイントとして "**Redirect URI**"を指定する必要があります。この情報はエージェント開発パートナーが提供します。
 - b) アンビエント スキルについては、エージェント開発プラットフォームから x509公開鍵を指定する必要があります。この情報はエージェント開発パートナーが提供します。別のエージェントで使用されていない一意のキーを選択してください。次も参照してください:
<https://hdp1471450668309.dita-workday.com/authentication-and-security/security-for-integrations/access-to-external-endpoints/>
-セキュリティ: "System" 業務分野の "Security Administration" ドメイン
7. "OK" をクリックします。
8. エージェントを初めて設定する際は、エージェントの OAuthクライアント詳細が表示されます。

Note: "クライアント ID" と "クライアント シークレット" の値をコピーして保存します。このページは今後表示されなくなり、この情報にアクセスすることもできなくなります。
9. エージェントが実行時にアクセスできるように、OAuthクライアントの詳細とエンドポイント URL をエージェント開発プラットフォーム コードに入力します。表示される OAuthクライアントとエンドポイント URL の詳細には、以下のようなものがあります。
 - 認証エンドポイント URL
 - トークン エンドポイント URL
 - エンドポイント URL
 - OAuth 2.0 Client ID
 - OAuth 2.0 Client Secret (委任先のみ)
 - エージェント システム アカountのユーザー名 (間接者のみ)
10. "Agent Agent"を選択して、アクティブ化するエージェントをクリックする。
11. エージェントのプロファイル ビューから、"エージェントのアクティブ化"をクリックします。"エージェントのアクティブ化"ウィンドウで、"確認" チェックボックスをオンにした後、"OK" を選択してアクティブ化を完了します。

Result

Workday、エージェント システム ユーザー (ASU) が自動的に作成され、エージェントにエージェント セキュリティ グループ (ASG) が割り当てられます。このグループは、"System"業務分野の "Workday Accounts"ドメインにセキュリティ保護された (されている、済の)、"すべての AI エージェント アカount" レポートで検索できます。これらは、エージェントのセキュリティ ポリシーと権限を設定する際に使用できます。

Next Steps

[エージェントのセキュリティ ポリシーの設定](#) .

概念: 外部エージェント ASU の考慮事項

外部エージェントを作成するには、以下の考慮事項を活用することをお勧めします。

ASU の委任

エージェントの設定後に提供される ASU クライアント認証情報は、[OAuth 2.0 Authorization Code Grant Flow](#) で使用する必要があり、エージェント実行時にエージェントがアクセスできるようにする必要があります。

外部エージェントの認証コードグラントフローを手動でテストする場合は、エージェントの設定時に提供されたクライアントの詳細とエンドポイント URL を、以下のステップの入力として使用します。

1. 次の URL を新しいウィンドウに貼り付けることで、認証コードを取得します: `https://<providedAuthorizeEndpoint>?response_type=code&Client_id=<clientID>&state=<agentName>&redirect_pri=<redirectionURI>`。
この URL により、エージェントが代わりに動作するユーザー認証情報を手動で入力する必要があるログイン ページにリダイレクトされます。
ログインに成功した後は、"許可/却下" ページにリダイレクトされ、Workday アカウントへのアクセス権をエージェントにグラントします。次の API を呼び出すために使用できるコードが付加された、指定された Redirection URI にリダイレクトされるようにする場合は、"許可" をオンにします。
2. 前の API 呼び出しで提供された認証コードを使用して外部 API クライアントを使用して新しいリクエストを作成することで、ASU トークンを取得します。

例: Brendt:

- `POST https://<providedTokenURL>`
- 本文: GR 場合 `_type=authorization_code&code=<authorizationCode>&client_id=<clientID>&Client_secret=<ClientSecret>`
これにより、エージェントが Workday サービスに呼び出しをテストするために使用できるアクセス トークンとリフレッシュ トークンが生成されます。

トークンエンドポイントからの回答の本文で、`expires_in` パラメータが Integer 型で返されることが必要です。テスト環境によって、このパラメータ型が整数と文字列で異なる可能性があるため、外部 Workday で文字列型と整数型の両方を処理できるようにすることをお勧めします。

エージェント定義を更新する必要がある場合は、同じエージェント名、バージョン、プロバイダを POST AgentDefinition API に指定できます。これにより、エージェントが更新されます。一致するものがない場合は、新しいエージェント登録が作成 Workday されます。

エージェントが AuthCode とクライアント認証情報を使用してトークンエンドポイントにリクエストを送信すると、アクセス トークンとリフレッシュ トークンの両方が作成され、差し戻されます。

アクセス トークンの有効期限は 3600 秒 (60 分) です。リフレッシュ トークンの有効期限は 24 時間です。

アクセス トークンの有効期限が切れると、リフレッシュ トークンによって新しいアクセス トークンが作成されます。

一般的な OAuth クライアントに必要なものは、以下のみです。

- クライアント シークレットとクライアント ID: エージェント設定プロセス中に取得されます。
- エンドポイントの認証: `https://us.agent.workday.com/auth/authorize/ <テナント エイリアス>`
- **Token Endpoint:** `https://us.agent.workday.com/auth/oauth2/<Tenant_Alias>/token`
- リダイレクト URL: エージェント設定プロセス中にエージェント開発者から提供されます。

アンビエント ASU

エージェント設定後に提供される ASU クライアント ID とユーザー名は、JWT アサーションとトークン世代を実行するために使用する必要があります。

- 発行元はクライアント ID である必要があります。
- 件名は ASU ユーザー名である必要があります。

アンビエントスキル登録時に必須x509 に対応するキーペアは、エージェント実行時に JWT アサーションを実行するために使用されます。

エージェントのコードを更新して、エージェントの実行時に、リクエストがエージェントに送信されたときに、有効なアクセス トークンがキャッシュされているかどうかをエージェントがチェックするようにします。有効でない場合、またはトークンの有効期限が切れている場合は、以下の処理が行われます。

- 新しい JWT アサーションを作成します
- JWT Bearer トークンを取得します
- Workday API リクエスト用のキャッシュ トークン

エージェントのセキュリティとコンプライアンス

設定の考慮事項: エージェントのセキュリティ

このトピックを、エージェントのセキュリティ設定をプランニング際の決定に役立てることができます。以下について説明します。

- 設定する理由
- Workday のその他の部分への適合
- 下流への影響と製品間インタラクション
- セキュリティ要件
- 実装前に考慮しておく質問事項と制限事項

機能の概要

エージェント セキュリティ フレームワークは、テナント内の AI エージェントのアイデンティティ、認証、および認可を管理します。標準的なチャットボットとは異なり、エージェントは休暇の申請や給与情報の取得など、エンタープライズ システムで重要なタスクを実行できます。このフレームワークにより、エージェントは最小権限の原則の下で動作し、自律性の高いインタラクションとユーザー主導のインタラクションの両方を堅牢な制御機能で実行できます。

業務上のメリット

- ガバナンスの強化: エージェント (従業員など) に固有のアイデンティティと監査可能なアクティビティ ログを持たせる。
- 粒度の制御: 実行モードに基づいてエージェント機能を制限し、エージェントがアクセスを許可されていないデータのみにアクセスできるようにします。
- 透明性のある監査: エージェントが自律的にアクションを実行する場合と、エージェントがユーザーに代わって実行する場合を区別する、明確な監査証跡を提供します。

ユース ケース

- インタラクティブ アシスタント (委任モード): インタラクティブ アシスタント (委任モード): ユーザーが、次の月曜日の休暇を申請するようエージェントに依頼します。エージェントは、ユーザーに代わってリクエストを実行します。セキュリティは、ユーザーの権限とエージェントの許可するスキルの積集合に基づいて評価されます。
- アンビエント モードのバックグラウンド処理: エージェントがスケジュールに基づいて、データプールを自動的に集計したり、データセットを評価したりします。エージェントは、ユーザーの介入なしで独自のセキュリティ権限を使用して機能します。

考慮すべき質問事項

質問	考慮事項
エージェントにはどの実行モードが必要ですか？	エージェント実行モードには以下の 2 つがあります。 - 委任モード: エージェントがユーザーの代わりに行動する場合に使用します。セキュリティ チェックによって、スキルへのユーザーのアクセス権がチェックされます。 - アンビエント モード: エージェントが自身として機能するバックグラウンド タスクに使用します。セキュリティ チェック: エージェントのデータとタスクへのアクセス権をチェックします。
特定の委任エージェントスキルとやり取りして起動できるのは誰ですか？	どのユーザー セキュリティ グループがエージェントのスキルとやり取りできるかを指定する、エージェント インタラクション ポリシーを定義する必要があります。正常にトリガするには、スキルをトリガしているユーザーが許可されているセキュリティ グループに属している必要があります。
エージェント ID はどのように管理しますか？	エージェントには、一意のエージェント システム ユーザー (ASU) アカウントが必要です。エージェントには、最大で 2 つの ASU を設定できます。1 つは委任モード、もう 1 つは借方モードに対応しています。
アンビエント エージェントは、どのような特定のデータ ドメインまたはビジネス プロセスアクションにアクセスする必要がありますか？	アンビエント エージェントの権限は、自身のエージェント システム ユーザー (ASU) の権限に対してのみ評価されます。必須ドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーには、一意のアンビエント エージェント セキュリティ グループを割り当てる必要があります。
Agent Forge を使用したインテグレーションアプリケーションでは、どの認証コンポーネントをサポートする必要がありますか？	委任モードでは、委任アクセス トークンのユーザー Alpaca トークンの交換に関連する OAuth 2.0 <i>On-Behalf-Of</i> フローが使用されます。アプリケーションが必要なトークンタイプとヘッダー要件を処理できることを確認する必要があります。
プロキシ アカウントで動作するように ASU を設定できますか？	いいえ、ASU はプロキシ アカウントをサポートしていません。

推奨事項

- 必要最小限のアクセス権の原則を遵守。エージェントには、特定のスキルに必須ドメインおよびビジネス プロセスへの必要最小限のアクセス権のみをグラント。
- 各モードに別々の ASU を使用します。認証と監査での混乱を避けるために、各エージェントに委任と実行のアカウントが割り当てられていることを確認します。
- "セキュリティ分析レポート" をレビューします。このレポートを使用して、エージェント スキルのドメインとビジネス プロセス セキュリティ ポリシーポリシー設定を明らかにします。
- 監査証跡のレビュー: 定期的に監査ログを調べて、エージェント アクションを確認します。このログでは、単独で実行するアンビエント エージェントと、特定のユーザーの代わりに動作する委任エージェントを明確に区別します。

要件

- セキュリティ ポリシーを定義し、Agent System of Record (ASOR) でエージェントのスキルを有効にして、エージェント システム ユーザー (ASU) とその認証情報を生成します。
- 生成された ASU とそれに関連付けられた OAuthクライアントは、デフォルトで無効になっています。エージェントを使用有効にするには、エージェントをアクティブ化する必要があります。
- 委任エージェント モードでは、リクエストを行うユーザーに、基になるエージェントとタスクへのセキュリティ アクセス権が必要です。

制限事項

- Duplicate Identity Requirement: 委任モードとアンビエント モードの両方で動作する必要があるエージェントには、実行モードごとに別個の ASU アカウントと認証情報が設定されている必要があります。
- キー管理: ASOR が認証情報ストアでのクライアント認証情報(秘密鍵) の作成と安全な保管を処理しますが、このキー ペアを利用する OAuth 2.0 トークン交換プロセスがセキュリティ環境で上位目標ことを確認する必要があります。

テナント設定

NA

セキュリティ

エージェントを管理するセキュリティ グループには、エージェント タスクを表示および実行するための "レポート/タスク" 権限および "変更" 権限と、エージェント設定データを異動ための "インテグレーション" 権限が必要です。

ドメイン	考慮事項
<i>Manage: Agents</i>	Agent System of Record (ASOR) の設定タスクとアクティビティへのアクセス権を付与します。
<i>Setup: Agents</i>	エージェントの設定、アクティブ化、非アクティブ化を行うタスクへのアクセス権を付与します。
エージェント管理ハブ	すべてのエージェントを表示および管理するための一元化されたハブへのアクセスを許可します。
<i>Reports: AI Agent Security</i>	新しい "View AI Agent User Audit Trail " レポートへのアクセス権を付与します。

レポート

- エージェント スキルのセキュリティの表示: エージェント スキルのドメインとビジネス プロセスセキュリティ ポリシー設定が表示されます。このレポートには、エージェントスキルの関連アクション メニューからアクセスできます。
- AI エージェント ユーザー監査証跡の表示: ユーザー アクティビティが表示されます。"ユーザー別" と "代わりにユーザー" を区別できます。これにはエージェントの関連アクションからアクセスするか、スタンドアロンタスクとしてアクセスできます。

関連性のある機能

エージェント セキュリティ フレームワークは、Workdayの以下の主要領域に影響を与えています。

機能	考慮事項
Workday設定可能なセキュリティ	エージェント権限は、ドメインとビジネス プロセスのセキュリティ ポリシーとセキュリティ グ

機能	考慮事項
	ループに完全に依存し、セキュリティ保護された (されている、済の) アイテムにアクセスできるユーザーは制御されます。
Agent System of Record (ASOR)	ASOR は、エージェントの定義と設定を管理し、エージェントのセキュリティ ポリシーと認証参照 ID を記録するシステムとして機能します。
OAuth 2.0 認証	エージェント認証フローは、委任モードでの "On-Behalf-Of" トークン交換に OAuth を使用します。
Workday REST API	Workday データへのエージェント アクセスは、特定のドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーにセキュリティ保護された (されている、済の) REST API エンドポイントを介して実行されます。

Workday が提供する Touchpoints Kit とリソースは、テナント内の構成の関係を理解するのに役立ちます。詳細は、Workday Community の [Workday Touchpoints Kit](#) を参照してください。

エージェントのセキュリティ ポリシーの設定

Prerequisites

- アンビエント エージェントには一意のアンビエント エージェント セキュリティ グループが生成されます。
- セキュリティ: "System" 業務分野の "Security Configuration" ドメイン

Context

エージェント タイプに基づいて、Workday の評価が変わります。

- Workday の委任: 開始ユーザーのセキュリティ アクセス権が使用される。呼び出し元のユーザーが、基盤となるツールに対する必須ドメインとビジネス プロセス権限をすでに持っている場合、更新は必要ありません。この手順は、呼び出し元ユーザーが、エージェントのツールを保護するドメインへの追加のアクセス権を必要とする場合にのみ使用してください。
- アンビエント エージェント: Workday は、エージェントの権限に対してのみセキュリティを評価します。スキル "" をアクティブ化すると、ASOR によって一意のアンビエント エージェント セキュリティ グループ (ASG) が生成されます。ツールや API などのセキュリティ保護された (されている、済の) アイテムへのアクセス権をグラントには、この ASG を関連するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーに明示的に割り当てる必要があります。

Steps

1. エージェントスキルの関連アクション メニューから "エージェント スキルのセキュリティの表示" レポートにアクセスします。
2. スキル内のツールをセキュリティ保護するドメインを特定します。
3. REST API エンドポイントのドメインセキュリティ ポリシーまたはエージェントがアクセスする必要があるデータを検索して選択します。
4. ドメインセキュリティ ポリシーの関連アクション メニューから、"セキュリティ ポリシー"" > ドメイン セキュリティ ポリシーの編集" を選択します。

5. タスクを完了:

オプション	説明
委任先エージェント	"セキュリティ グループ"プロンプトから、アクセスする必要がある起動ユーザーが含まれているセキュリティ グループを選択します。
アンビエント エージェント	"セキュリティ グループ"プロンプトから、"Aプロジェクト セキュリティ グループ"を選択します。

- "表示" チェックボックスまたは"変更"チェックボックスをオンにして、セキュリティ グループにセキュリティ保護可能なアイテムへのアクセス権をグラント。
- "View Security for Agent Skill" レポートのツールで "取得 (GET)" 権限/"入力 (PUT)" 権限が必要な場合は、"取得 (GET)" チェックボックスまたは "入力(PUT)" チェックボックスをオンにして、グラントグループにインテグレーションへのアクセス権限を付与します。
- 処理待ちのセキュリティ ポリシーの変更のアクティブ化

Result

エージェントは、セキュリティ保護された (されている、済の)ドメイン "" で、必須アクションを実行できるようになりました。委任エージェントの場合、更新した特定の起動ユーザーに、エージェントのツールを使用するために必須権限が付与されます。

概念: エージェント セキュリティ

エージェント セキュリティ: AI エージェントに固有のアイデンティティを割り当て、堅牢な認証を行い、詳細な認証制御を行うことで、企業内で AI エージェントが安全に動作するようにします。エージェントのセキュリティは、エージェントがデータとやり取りしてタスクを実行する方法を制御し、権限が最小限の原則を遵守します。

Agent System of Record (ASOR) でエージェントのライフサイクルと定義を管理しますが、エージェントセキュリティによって、実行時の動作が指定されます。

エージェント セキュリティ フレームワークでは、以下の 2 つの異なるエージェント実行モードが上位目標。

- 委任モード: ユーザーの代わりにアクションを実行します。例: ユーザーは、特定の日付の休暇申請タスクをエージェントに委任します。
- アンビエント モード: イベントのトリガまたはスケジュールに基づいて自律的に処理します。エージェントは完全には独立していないものの、データ プールの集計やイベントトリガへの対応など、バックグラウンド タスクを実行するために独立して動作します。

エージェント ID: エージェント システム ユーザー (ASU)

インテグレーション システム ユーザー (ISU) と同様に、エージェントはエージェント システム ユーザー アカウント (ASU) を使用します。エージェントがアクセスできる内容について一意の制御が行われるようにし、監査の透明性を確保するため、各エージェントには一意の ID またはユーザー アカウントが割り当てられます。

- 一意のアイデンティティ: 各エージェントには一意の ASU アカウントがあります。
- モード固有: エージェントには最大 2 つの ASU を設定できます。委任実行とアンビエント実行でそれぞれ 1 行。各 ASU は、特定の OAuth 2.0 クライアントを使用します。
- 管理: "Agent System of Record" でスキルを設定すると、システムが自動的に ASU を生成し、管理します。例: アンビエントスキルをアクティブにすると、必要なアンビエント ASU の作成がトリガされます。

ASU の作成と登録

ASU の作成プロセスは、ASOR でのエージェントの設定およびスキルの有効化と並行して行われます。

- ASU 生成: 管理者がエージェントのスキルを有効にすると、ASOR はそのエージェントに対して専用の委任 ASU またはアンビエント ASU を無効にした状態で自動的に作成します。エージェントがアクティブ化されると、関連付けられた ASU が自動的に有効になります。
- OAuth クライアントとキー ペア: OAuth クライアントが生成され、ASU に接続されます。秘密鍵ペアが作成され、公開鍵が Workday 認証サーバーに登録されます。その後、ASU は、スキルで定義されたタスクを認証および実行する能力ができます。
- 認証情報の保管先: ASOR は、秘密鍵 () を含むクライアント認証情報を認証情報ストアに安全に保存します。これらのキー ペアの認証情報へのポイントとして、一意の参照 ID が ASOR に保存されます。これは、OAuth 2.0 クライアント認証情報ではなく、委任先の ASU のユーザートークンとともに交換される ASU トークンを生成するために使用されます。

セキュリティ モードの比較

機能	委任モード	アンビエント モード
主ユース ケース	インタラクティブなタスク例: 自分自身の休暇を申請します。	バックグラウンド タスク例: データの集計。
使用先のアイデンティティ	ユーザーとエージェントの組み合わせ (ASU)。	エージェント ASU のみ。
認証	エージェントは、"On-Behalf-Of" フローに OAuth 2.0 を使用します。	エージェントはアンビエント ASU として認証され、ユーザーの関与はありません。
認証ロジック	システムは、ユーザーの権限とエージェントの許可されているスキルの積集合に基づいてセキュリティを評価します。	セキュリティは、エージェントの権限に対してのみ評価されます。
設定	エージェント インタラクション ポリシー: 特定のエージェント スキルとインタラクションできるユーザーを定義します。	ドメイン セキュリティ ポリシー: エージェントがアクセスできる内容を定義します。
セキュリティ グループ	このスキルを起動するには、スキルに対して許可されたセキュリティ グループにユーザーが属している必要があります。	アンビエントスキルがアクティブになると、一意のアンビエント エージェント セキュリティ グループが生成され、関連するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーに割り当てする必要があります。
検証ログ	エージェントによって実行されたトランザクションは"ユーザー別"として記録され、ユーザーは"代行ユーザー"として記録されます。	監査ログに、エージェント ASU が "ユーザー別"として表示されます。

導入の考慮事項

Workday には、エージェントのスキルに関するドメインおよびビジネス プロセス セキュリティ ポリシー設定の"セキュリティ分析"レポートが用意されています。このレポートは、エージェントに必要なセキュリティ設定を特定するのに役立ちます。

概念: エージェント インタラクション ポリシー

エージェント インタラクション ポリシーは Agent System of Record (ASOR) 内のセキュリティ設定であり、特定のエージェント スキルと対話したり、特定のスキルを呼び出したりすることを許可するユーザーを明示的に定義します。

説明

ポリシーは、エージェントの委任モードのスキルのオプトイン メカニズムとして機能します。ユーザーがエージェントスキルのセキュリティ グループに属していない場合、そのスキルのツールについてユーザーがドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーにアクセスできる場合でも、そのスキルを使用することはできません。ユーザーがエージェントとやり取りしようとする、Workday エージェントセキュリティ フレームワークによって、以下の 2 段階のセキュリティ評価が実行されます。

1. エージェント インタラクション チェック: システムが、"**Available To**"リストで設定されている、エージェントのエージェント インタラクション ポリシーに含まれるセキュリティ グループにユーザーが属しているかどうかをチェックします。ユーザーがこれらのグループのいずれのメンバーでもない場合、スキルの"ツール"セクションで定義されたタスクを実行するために必要なセキュリティ権限をユーザーが持っている場合でも、エージェントのインタラクションは拒否されます。
2. ドメインとビジネス プロセスのチェック: ユーザーがインタラクションチェックに合格した場合、システムは、ドメインとビジネス プロセスのセキュリティ ポリシーを含む標準権限を検証し、データを表示したり、リクエストされたアクションを実行する権限があることを確認します。ドメインは、ツールだけでなくフィールド レベルでもチェックされます。これは、エージェントのスキルが実行されたときにドメインセキュリティがエージェントなしで動作するのと同じです。

区分

Workday、委任モードで動作するエージェントとスキルに対してのみ、エージェント インタラクション ポリシーを設定できます。

- 委任モード: エージェント インタラクション ポリシーが必要です。これらのスキルの使用を許可するには、セキュリティ グループに明示的にオプトインする必要があります。
- アンビエント モード: エージェント インタラクション ポリシーを使用しません。アンビエント エージェントは、トリガやスケジュールに基づいてバックグラウンドで自ら動作するため、ユーザーと直接やり取りすることではなく、そのため、どのユーザーがエージェントとやり取りできるかを定義するポリシーは不要です。

設定

特定のスキルの"使用可能先"設定を行うことによって、エージェント管理ハブまたはエージェント登録時に、エージェント インタラクション ポリシーを定義できます。

例: "職務補充依頼の作成"スキルを持つリクルーターの場合、"リクルーター"セキュリティ グループを "使用可能"リストに追加できます。リクルーターセキュリティ グループのユーザーのみが、職務調達依頼の作成をエージェントにリクエストできます。"Employee As Self"セキュリティ グループのユーザーは、調達依頼を作成するためのドメインアクセスを持っていたとしても、このスキルを使用することはできません。

Agent Gateway

Agent Gateway への認証

Prerequisites

- 新しいエージェント登録APIを介して、Agent System of Record (ASOR) にエージェントを登録します。ASOR へのエージェント登録の詳細については、[APIを介したエージェントの登録と定義を参照してください](#)。
- クライアント ID: これは ASOR の設定ステップから取得します。
- クライアント シークレット: ASOR の設定ステップから取得します。

- Authorization endpoint: `https://us.agent.workday.com/auth/authorize/<Tenant_Alias>`
- Token endpoint: `https://us.agent.workday.com/auth/oauth2/<Tenant_Alias>/token`
- リダイレクト URI: エージェント開発者が、エージェントの設定ステップ中に ASOR で提供します。
- エージェントは ASOR でアクティブです。

Context

Agent Gateway がリクエストを正しい Workday データ センターに転送するためには、テナントのエイリアスを把握する必要があります。このエイリアスは、認証のリクエストを含む、すべてのエージェント API リクエストで指定される必要があります。テナントエイリアスは通常、テナントの名称で、Workday インスタンスの URL である `https://wd8.myworkday.com/sterk-industry/d/home.html` にアクセスできます。

割り当てられたエージェント ゲートウェイ エンドポイントに関連するすべての API 呼び出しを実行するには、エージェントのコードまたは設定を変更する必要があります。

次の画像は、標準の OAuth 2.0 Authorization Code Grant 認証フローを示しています。このフロー自体の詳細なステップは、次のとおりです。外部エージェント プラットフォームが OAuth 2.0 標準に上位目標場合は、すでにこのプロセスをサポートしている必要があります。

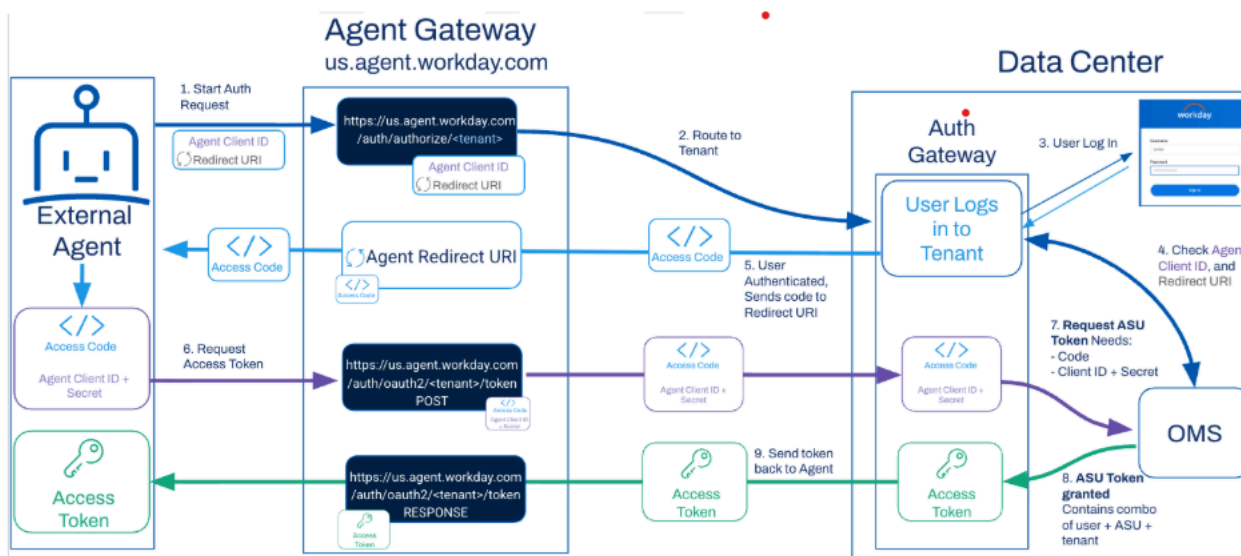


Figure 1: OAuth 2.0 認証

Note: このステップでは、標準の OAuth 2.0 のフローについて説明します。手動で実装する必要はありません。一般的な OAuth クライアントでは、「前提条件」セクションに指定された設定値のみが必要です。認証の詳細については、[Workdayでの外部エージェントの設定](#)を参照してください。

Steps

1. 認証コードをリクエストするには、Agent Gateway の認証エンドポイントに HTTPS GET リクエストを送信します。

ブラウザでこのリクエストを送信し、リクエストされた場合はサインイン:

```
https://us.agent.workday.com/auth/authorize/<Tenant_Alias>?
client_id=<OAuth_Client_ID>&response_type=code
```

エージェント ゲートウェイは、リクエストのテナント エイリアスを使用して、テナントがあるデータ センターの認証ゲートウェイにこのリクエストを送信します。認証ゲートウェイは、認証に使用するため、Workday のログイン ポップアップにリダイレクトします。ログインが成功し、

エージェントがWorkdayデータにアクセスすることに同意すると、エージェントは認証コードを受け取ります。

2. 回答 "" から認証コード値をコピーします。
3. アクセス トークンをリクエストするには、エージェント ゲートウェイのトークンエンドポイントに POST リクエストを送信します。

```
POST https://us.agent.workday.com/auth/oauth2/<Tenant_Alias>/token

grant_type=authorization_code
code=<authorization_code>
client_id=<OAuth_Client_ID>
client_secret=<OAuth_Client_Secret>
```

Agent Gateway が、テナントのデータ センターにある認証ゲートウェイにリクエストを転送します。指定された認証情報を検証した後、認証ゲートウェイは OMS にアクセス トークンをリクエストします。その後、エージェントはアクセス トークンを受信します。

概念: エージェント ゲートウェイを介したAPIリクエスト

エージェントは、Agent Gateway を介してAPIリクエストを送信します。これには、HTTP ヘッダーとしてテナント エイリアスを含めます。ヘッダーのテナント エイリアスにより、Agent Gateway はリクエストをテナントに正しいデータ センターにルーティングできます。

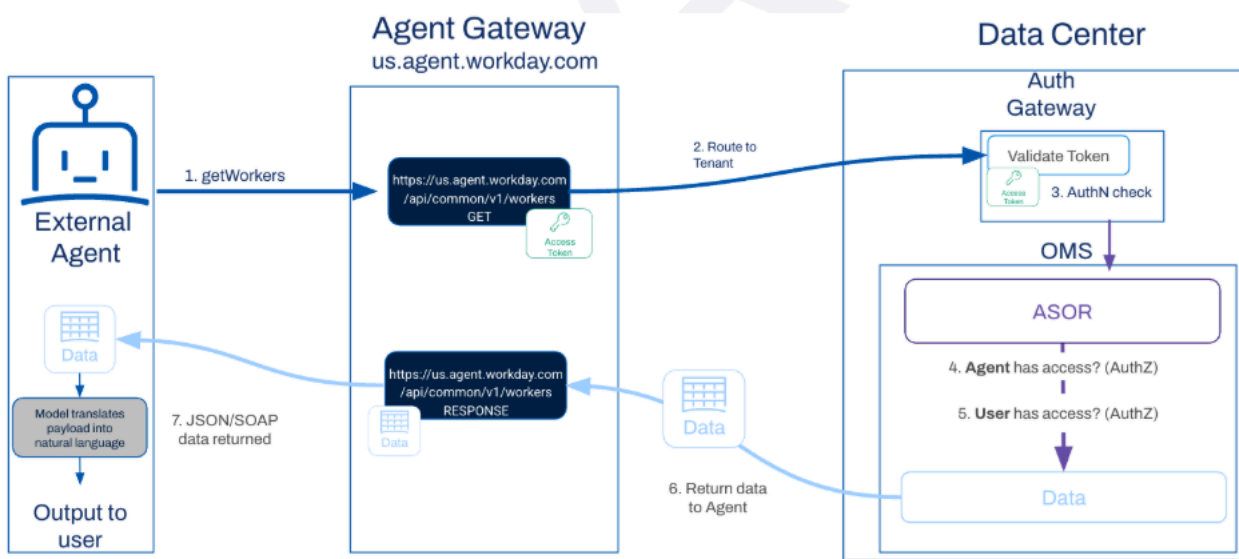


Figure 2: Agent Gateway を介したAPIリクエスト

サンプルAPIリクエスト:

```
GET https://us.agent.workday.com/api/common/v1/workers
```

HTTP ヘッダーのサンプル:

```
wd-agent-tenant-alias: stark-industries
```

エージェントのAPI呼び出しには、以下を含める必要があります。

- ゲートウェイ エンドポイント: [US.agent.workday.com](https://us.agent.workday.com)。
- テナント エイリアス HTTP ヘッダー: リクエストの HTTP ヘッダーとして `wd-agent-tenant-alias` を指定します。値は一意でなければなりません。

- SOAP 呼び出し: SOAP 呼び出しの正しいエンドポイントは "" です

```
https://us.agent.workday.com/soap/{version}/{serviceName}
```

概念: パートナー エージェントのための Workday Agent Gateway

このドキュメントは、Agent Gateway をシームレスに実装ために必須ガイダンスを提供しており、お客様のエージェントが Workday エージェント プラットフォーム標準に準拠しながら Agent Gateway のメリットを活用できるようにします。

Workday の Agent Gateway を利用すれば、AI エージェントを Workday の Agent System of Record (ASOR) に簡単に接続できます。エージェントが Workday エコシステムと連携して情報を通信し、既存のワークフロー内でリアルタイムのサポートと自動化を提供できるようにします。

Agent Gateway は、サードパーティ エージェントが Workday と連携する方法を一元化および合理化する、単一の統合地域エンドポイントを提供することで、安全でインテリジェントなリバース プロキシとして機能します。Agent Gateway は、すべてのエージェント パートナーに対して、Workday API (Graph を含む) へのアクセス権と、エージェント定義レジストリ API へのアクセス権を付与します。

Agent Gateway には以下が含まれます。

- [すべての公開 REST 操作](#)
- [すべての公開 SOAP オペレーション](#)
- Workday Graph API
- Workday クエリー言語 (WQL)
- Workday RaaS

Agent Gateway は、必要なセキュリティ、拡張性、運用ツールに裏打ちされた、Workday で強力に統合されたエージェント エクスペリエンスを構築するための出発点となります。Agent Gateway は以下を提供します。

- 包括的な観察: 詳細な記録とメトリックにより、エージェントのパフォーマンスと状態を監視します。
- 将来性: 将来の Workday プラットフォームのアップデートとセキュリティ プロトコルに対して、エージェントが効率的に連携できるように準備します。
- 予測可能なパフォーマンスと安定性: 組み込み型のレート制限とパフォーマンス ガードレールにより、エージェントが安定した高パフォーマンス環境で Workday とやり取りできるようにします。
- 堅牢なセキュリティと信託: すべての API 呼び出しが Workday の堅牢なセキュリティ レイヤーで認証および認可されるため、安全で準拠したインタラクションモデルが提供されます。
- Workday API へのアクセスの合理化: すべてのエージェントの Workday API インタラクションに一貫かつ管理されたエントリ ポイントを提供します。
- 透明性のある使用状況の追跡: エージェントの API 使用状況について明確な追跡を確保し、正確な請求とコスト管理に必要なデータを提供します。

Workday API と連携するすべてのサードパーティ エージェントは、必須に応じてエージェント システム ユーザー (ASU) セキュリティを使用して、エージェント ゲートウェイに API トラフィックをルーティングする必要があります。エージェント セキュリティの詳細については、[概念: エージェント セキュリティ](#)を参照してください。

Agent Gateway を介して API トラフィックをルーティングするには、Agent System of Record (ASOR) を介して Workday に外部エージェントを登録し、認証方法を設定する必要があります。ASOR への外部エージェントの登録および認証の設定の詳細については、[Workday での外部エージェントの設定](#)を参照してください。

参考: エージェント ゲートウェイの地域別の対応可否

Agent Gateway は、貴社の要件に対応するために、複数の地域で利用可能です。地域に基づいて以下のエンドポイントを使用します。

地域	公開地域エンドポイント
US	https://us.agent.workday.com
EU	https://eu.agent.workday.com
UK	https://uk.agent.workday.com
SIN	https://sg.agent.workday.com
IND	https://in.agent.workday.com
JPN	https://jp.agent.workday.com

Agent Marketplace

概念: Agent Marketplace

Workday Marketplace は、Workday経済のデジタル ハブです。お客様が、ソフトウェアおよびサービスパートナーから信頼できるソリューションを見つけ、試し、購入する単一の場所です。Workdayソリューション エコシステムを統合して、Workdayと統合するベストプラクティス ソリューションの評価を支援します。

Workday、お客様が AI エージェントを発見するための Agent Marketplace をWorkdayマーケットプレイス内で提供しています。Workdayエコシステムの一部として、Agent Marketplace によって業務上の課題に対処し、Workday の機能を拡張するよう設計されたエージェント ソリューションが提供されます。

Agent Marketplace には、WorkdayおよびWorkdayパートナーの AI エージェントのカタログが用意されています。"Build on Workday (BoW)" または "Connect/Benefit" パートナー プログラムのパートナーは、認定エージェントをビルドで配布できます。

Agent Marketplace では、対象となるソリューションを検索できます。Agent Marketplace にアクセスします。 <https://marketplace.workday.com/en-US/pages/agents>にアクセスします。

Agent System of Record (ASOR) を使用して、AI エージェントを大規模に安全に登録、設定、監視、管理できます。

さまざまなユーザー タイプに対応する Agent Marketplace

Workday、以下のユーザー タイプ向けに Agent Marketplace を設計しています。

- 顧客
 - 一元化されたディスカバリ: 利用可能なWorkdayおよびWorkdayパートナー エージェントを確認して確認するための単一の事業地。
 - 情報に基づく意思決定: エージェントの機能、福利厚生、責任ある AI の実践に関する情報にアクセスし、適切なソリューションを選択するのに役立っています。
 - 直接接続: 詳細については、"お問い合わせ"ボタンでWorkdayまたはWorkdayパートナーに直接接続してください。
- Workdayパートナー
 - 可視性の向上: Workdayの範囲お客様にエージェント ベースのソリューションを参加してもらう機会。
 - リードジェネレーション: "連絡先"ボタンは、お客様の問い合わせや潜在能力候補者にとっての直接チャネルとして機能します。
- システム導入者: ビジネス要件に合わせてエージェントを検索して選択します。
- 開発者: 新しいエージェントまたはスキルをアップロードします。

概念: Workday Marketplace でのエージェント リスト

エージェント リストを導入するために、WorkdayWorkdayプレイスに以下の変更が加えられます。

- エージェント ソリューション タイプ: 新しいエージェントソリューション タイプフィルタ ""。
- エージェント カードとリスト: 各エージェントには、専用ページがあり、各エージェントが提供するロールやスキルに関する特徴、福利厚生、説明が記載されています。
- カテゴリ分け: エージェントは、Workday の大まかなビジネス グループに基づいて分類されるため、エージェントは製品戦略に合致し、Workdayエクスペリエンス全体で一貫した検索とディスカバリ エクスペリエンスをサポートします。
- エージェントリンク: "AI ソリューション"セクションにあるリンクで、ユーザーをエージェント リストに誘導します。
- 責任ある AI のバッジ: 責任ある AI の確認プロセスを完了したWorkdayエージェントには、適宜バッジが付けられます。

Workday 構築エージェント

BP 最適化エージェント

BP 最適化エージェントの設定

Prerequisites

Note: 組織がBP 最適化エージェントを使用するには、ユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) にオプトインする必要があります。この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織はメイン サービス契約 (MSA) または UMSA に含まれています。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA :組織はUMSA にオプトイン必要があります。

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。UMSA は、Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本番テナントに必須です。本番環境サンドボックス テナントで BP 最適化エージェントを使用するには、本番環境で BP 最適化エージェントを登録してアクティブ化する必要があります。本番環境のインスタンスでエージェントをアクティブ化した後は、システムが変更を処理するのに最大 24 時間待ってから、サンドボックスでエージェントのアクティブ化を試行してください。

- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)へのオプトイン。本稼働テナントでの使用にのみ必須。
- [エージェント システム オブ レコード](#)を設定します。

- セキュリティ: "Agent System of Record"業務分野の以下のドメイン:

- エージェント コンプライアンス
- エージェント管理ハブ
- *Manage: Agents*
- *Reports: Agent Reporting*
- *Reports: AI Agent Security*
- *Setup: Agents*

- セキュリティ: "System" 業務分野の以下のドメイン:

- Business Process Administrator
- BP 最適化エージェント

"BP Optimize Agent"ドメインは、"Business Process Administrator"ドメインからセキュリティを継承します。組織 ""のアクセス権をカスタマイズするには、継承を上書きし、"BP Optimize Agent"ドメインを使用します。

- (任意) BP 最適化エージェントには、UMSA のお客様向けに、"BP Optimize Agent"というラベルの付いたオプションの ML データ提供機能が含まれます。この機能は、Workdayエージェントチャット内のユーザー プロンプトに基づいて生成されるエージェント トラックへのアクセス権をWorkdayに付与します。UMSA の顧客に対してはデフォルトで有効になっています。ただし、を手動でオプトアウトことは能力。

Context

エージェント管理ハブを使用して、Workdayに BP 最適化エージェントを登録、設定、アクティブ化できます。

BP 最適化エージェントを設定する前に、以下の現在の要件と制限事項をレビューしてください:

- 対象: エージェントを使用するには、テナントが米国または EU 地域にあり、1 か月あたりの平均取引が 200 万件未満である必要があります。
- サポートされている環境: エージェントを登録して使用できるのは、本番環境または本番稼働サンドボックスインスタンスだけです。
- 設定とコスト: 設定時に、製品ラインと参照期間を選択して、エージェントを設定する必要があります。現在、これらの選択を送信後に変更することはできません。これらの設定によって分析範囲が決まり、フレックス クレジットの使用状況に影響を与えることで、追加コストが発生する可能性があることに注意してください。
- 言語サポート: 現在、BP 最適化エージェントは英語のみを上位目標。たとえば、ユーザーの言語がフランス語に設定されている場合、エージェントはデフォルトで英語に設定されます。
- 除外されたステップ: エージェントは、"完了" ステップの後に設定されたすべてのステップを除外します。このステップを超えてワークフローが進行中であっても、そのビジネス プロセスは完了と見なされます。

Steps

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. "未登録のWorkdayエージェント" タブを選択します。
3. BP 最適化エージェントの場合は、"登録"をクリックします。
4. "確認" チェックボックス ()をオンにし、"OK"をクリックして登録を完了します。
"BP Optimize Agent" が "Agent Agent"タブにWorkdayします。
5. "Agent Agent"タブを選択し、"BP Optimize Agent"名をクリックしてエージェントを設定します。
6. エージェントのプロファイル ビューから、"エージェントの設定"をクリックします。

7. "追加設定" 列から、"BP Optimize Agent"リンクをクリックし、"過去分の参照期間"と"製品ライン"を選択します。

Note: 選択内容は分析範囲とフレックス クレジットの使用状況に影響します。送信する前に、製品ライン、ビジネス プロセスタイプ、および過去の期間を慎重にレビューしてください。現時点では、送信後にこれらの設定を変更することはできません。

8. "ステータス" 列から、トグルをスライドして"プロセス改善" スキルを使用可能にします。
9. "プロセスの改善" スキル行の "使用可能プロンプト" プロンプトから、"System"業務分野の以下のいずれかを選択します。
 - "Business Process Administrator"ドメイン。
 - "BP Optimize Agent"ドメイン(カスタマイズしている場合)。

"使用可能"プロンプトで選択するセキュリティ グループには、エージェントをセキュリティ保護するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーに対する権限も必要です。"View Security for Agent Skill"レポートを使用して、エージェントの設定を支援できます。

10. "OK" をクリックします。
11. "Agent Agent"タブで"BP Optimize Agent"をクリックし、 "Agent Agent"をクリックします。
12. "確認" チェックボックスをオンにし、 "OK"をクリックします。

Result

データのインジェスチョンが完了した後 (最大で 48 時間かかる場合)、 "Business Process Administrator"セキュリティ グループの従業員は、ダッシュボードまたはWorkdayエージェント チャット バブルアイコンから BP 最適化エージェントにアクセスして、以下を実行できます。

- ビジネス プロセスのパフォーマンス メトリックと実行の傾向を分析および視覚化する。
- 業界、地域、会社規模の同業他社ベンチマークと比較して、自社のパフォーマンスを比較できます。
- ボトルネック、異常実行パターン、およびその根本原因を特定する。
- ビジネス プロセスを最適化するためにカスタマイズされた実用的な推奨事項を利用できます。

Note:

- ビジネス プロセスの設定を変更する前に、必ず AI によって生成されたインサイトと推奨事項が正確かどうかを確認してください。
- 複数のエージェントが設定されている場合は、エージェント チャットにアクセスし、エージェント メニューから "BP 最適化エージェント" を選択する必要がある場合があります。

概念: BP 最適化エージェント

BP 最適化エージェントは、Workday内のビジネス プロセスの効率性、有効性、全体的なパフォーマンスの向上を支援する AI 搭載アシスタントです。エージェントは、現在のプロセスを分析して、改善が必要な領域を特定し、ステップごとのガイダンスを通じて実用的な推奨事項を提供します。

BP 最適化エージェントは、以下を使用します。

- 設定されているビジネス プロセスの実行詳細とそれに対応するステップ。実行時間を分析し、異常なパターンを特定します。
- テナント固有の実行データで、ベンチマーキングの集計平均を生成する。
- ベンチマーク グループとデータを決定するための専用システム データ。

Note: メトリックがス方法になるのを防ぐため、BP 最適化エージェントでは以下からデータが除外されます。

- エンタープライズ インターフェイス ビルダー (EIB)
- Web サービス
- インテグレーションによるロード
- すぐに完了したトランザクション (期間 = 0)

エージェントは、Workdayアプリケーション内で発生する実際のビジネス プロセスランザクションのみを考慮します。

プロセス改善スキル

BP 最適化エージェントは、プロセス改善スキルを提供しており、Workday管理者は以下を実行できます。

- ビジネス プロセスに対する深いインサイトを獲得し、ボトルネックを特定し、根本原因を特定する。
- 業種、地域、会社規模に応じて、ビジネス プロセスのパフォーマンスをベンチマークと照らして比較する。
- 固有のビジネス プロセスの使用先と設定に基づいて、カスタマイズされた実用的な最適化の推奨事項を利用。

詳細については、[概念: BP 最適化プロセスの改善スキル](#)を参照してください。

セキュリティの考慮事項

BP Optimize Agent のユーザーには、"System"業務分野の"Business Process Administration"または"BP Optimize Agent"セキュリティ ドメインでの"変更" 権限が必要です。

BP 最適化エージェントは、"作成者"および"最終更新者" のユーザーを表示する場合にのみ、個人情報 (PII) データを表示します。この情報は、以下の場合に、"BP Optimize Agent"ダッシュボードと "Trended and Anomalies"ページの"概要"セクションに表示されます。

- 棒グラフまたは折れ線グラフビューでビジネス プロセスをクリックします。
- ビジネス プロセスモダリティビューで"検証"をクリックします。

Workday の他のお客様が、各会社の個々のベンチマーキングデータを特定することはできません。Workday、ベンチマーク データは、最小数の顧客が定義された条件を満たす場合にのみ生成されます。これは、特定のお客様が識別されないようにするためです。

制限事項

- 傾向インサイト: 選択した期間内に開始および完了するイベントに限定してインサイト。エージェントは、ある期間に開始してからそれ以降に完了するイベントを除外します。
- ベンチマーキングインサイト: 同じ期間内に、そのビジネス プロセスに対して必須同業他社との取引が十分な場合にのみ生成されます。
- イベント ステータス: ステータスが "正常完了"、"取消"、"キャンセル"、または "プロセス終了" である完了済のイベントのみを考慮します。エージェントによって処理中のイベントが除外される。
- テナントの適格性: テナントが米国または EU 地域にあり、月あたりの平均取引が 200 万件未満である必要があります。
- 言語サポート: 現在は英語に限定されています。

概念: BP 最適化プロセスの改善スキル

概要

BP 最適化エージェントのプロセス改善スキルを使用すると、以下が可能になります。

- [ビジネス プロセスデータを分析します。](#)
- [メトリック データを視覚化する。](#)
- [ベンチマーク データと比較する。](#)
- [Review Benchmarking Insights.](#)
- [異常な傾向を観察する。](#)
- [異常値と根本原因を特定する。](#)
- [最適化の推奨事項を生成します。](#)

- 最適化の推奨事項を実施する。
- ビジネス プロセスの最適化について質問してください。

アクセス方法

"BP Optimize Agent"レポートの "プロセス改善" スキルにアクセスして、以下を実行できます。

- 特定のビジネス プロセスのパフォーマンスを分析し、グラフ上で選択して"検証"をクリックします。
- フィルタアイコンをクリックし、フィルタパネルの"業種ベンチマーキング"セクションまでスクロールして、ベンチマーク データを調整します。
- Workdayエージェント チャット バブルアイコンをクリックし、"BP 最適化エージェント"を選択して、自然言語を使用して質問する。

ビジネス プロセス データの分析

"プロセス改善" スキルでは、設定済みのビジネス プロセスとそれに対応するステップの実行詳細が使用されます。デフォルトでは、ダッシュボードには以下の項目でビジネス プロセスが表示されます。

- 業務グループ: "BP Optimize Agent"ダッシュボードには、会社のライセンス製品領域 (例: 拡張、支出、タレント、ワークフォース) のタブが表示されます。デフォルトのタブは"ワークフォース"です。
- 期間: デフォルトの期間は、標準暦年の最後の完了四半期です。例: 2026 年 4 月の場合、最後の完了四半期は 2026 年第 1 四半期 (2026 年 1 月から 3 月) です。

"期間" フィルタの設定は、月別または四半期別に変更できます。

Note: エージェントは、会計年度ではなくカレンダーを使用して四半期を決定します。

- ビジネス プロセスおよびビジネス プロセス定義: "ビジネス プロセス"フィルタでは、指定された期間内に完了するのに時間が最も長い上位 5 つのビジネス プロセス定義に関連付けられているビジネス プロセスタイプが事前に選択されます。

"ビジネス プロセス定義" フィルタには、選択したビジネス プロセスタイプのアクティブなビジネス プロセス定義が一覧表示されます。

フィルタを調整して、分析したいビジネス プロセスに焦点を当てます。

- メトリック: デフォルトでは、グラフに "完了までの期間 (時間数)" が表示されます。これは、ビジネス プロセスが完了するまでにかかった平均の時間数です。差戻しを選択すると、差戻しされたイベントの割合が表示されます。

メトリック データの視覚化

プロセス改善スキルを使用すると、正常に完了した、取り消された、キャンセルされた、または終了したイベントについて、以下の形式でビジネス プロセスパフォーマンス データを表示できます。

- 棒グラフ: このデフォルト ビューには、フィルタ条件を満たすビジネス プロセス定義の平均完了時間が表示されます。バーをクリックして、ビジネス プロセスの実行詳細を確認できます。

Note: ベンチマーク データが使用可能な場合、棒グラフ全体の行はベンチマーク データを表します。ベンチマーク データとの比較を参照してください。

- **テーブル:** このテーブルには、平均完了時間や差戻しなどの実行メトリックが表示されます。メトリックには、基準 (テナント値) とベンチマークの値 (存在する場合) が含まれます。ファネルをクリックして列をソートすると、以下のタイプのメトリックを表示できます。
 - 平均: メトリックの平均値。
 - 最大値: メトリックの最大値。
 - 最小値: メトリックの最小値。
 - **p50**: p50 (中央値) は、選択した期間におけるテナントまたはベンチマークについて、監視されたメトリック値の 50% を下回る値です。例: 50% のイベントは 20 時間以内に完了しますが、残りの 50% のイベントは 20 時間より長くなります。
 - **p95**: p95 は、選択した期間におけるテナントまたはベンチマークについて、監視されたメトリック値の 95% を下回る値です。例: 95% のイベントは 37 時間以内に完了し、残りの 5% の処理は 37 時間以上かかります。
- **折れ線グラフ:** このビューには、指定した期間におけるビジネス プロセスパフォーマンスの傾向が表示されます。各ポイントをクリックすると、ビジネス プロセスの実行詳細が表示されます。

棒グラフと折れ線グラフを PDF または画像ファイルとしてエクスポートするには、次の手順に従います。

1. 棒グラフまたは折れ線グラフの "" で、"関連アクション" をクリックします。
2. "PDF としてダウンロード" または "PNG としてダウンロード" を選択します。

参照やデータ分析を容易にするために、テーブルを CSV 形式や Excel 形式でエクスポートすることもできます。エクスポートには、使用可能なすべての値が含まれます。(例: 平均、最高値、p95。)

ベンチマーク データとの比較

ベンチマーク データが使用可能な場合、棒グラフではビジネス プロセス全体にベンチマーク行が表示されます。ビジネス プロセス定義が 1 つしかない場合、ベンチマーク データは横線ではなく、黒のドットで表示されます。ベンチマーク行を使用すると、会社のビジネス プロセスのパフォーマンスを同じ業界、地域、会社規模の他の会社と比較できます。"テーブル" ビューには、ベンチマーク メトリックも含まれます。

BP 最適化エージェントは、以下の方法でベンチマーク データを生成します。

- 業界、地域、企業規模という基準を共有お客様全体の実行データを平均する。
- Workday レコードでテナントの詳細を参照して、テナントのベンチマーク グループを特定する。

BP 最適化エージェントは、テナントのベンチマーキングピア コホートに、設定された最小閾値を満たす十分な数の顧客がない場合、ベンチマーク データを表示しません。

ベンチマーキング インサイトのレビュー

ビジネス プロセスを検査すると、より詳細な比較インサイトを参照でき、ビジネス プロセスのパフォーマンスを同業他社と比較して正確に特定できます。

"ベンチマーキング" セクションでは、以下の手順を行います。

- ビジネス プロセスパフォーマンスが業界、地域、会社規模のベンチマークに後れを取っている領域、またはこれらを超えている領域をハイライトします。
- ステップ レベルの実行を分析して、テナントで期間が最も長い特定のステップを最大 5 つ特定します。
- 定義レベルとこれらの 5 つのステップの両方について、テナントとパフォーマンスの高い同僚との設定の差異を比較し、実用的な最適化の推奨事項を生成します。ベンチマーキングの同業他社コホートに十分な顧客がない場合、エージェントには比較データは表示されません。
- 選択した四半期のみを評価する。
- ステータスが "正常完了"、"取消"、"キャンセル"、または "プロセス終了" のイベントが含まれる。
- "完了" ステップの後に設定されたステップは除外されます。このステップを超えてワークフローが進行していても、エージェントはビジネス プロセスを完了したものと見なされます。

異常な傾向の観察

チャートまたはテーブルからビジネス プロセスを選択し、"検証"をクリックすると、別のタブで検査ページが開き、より詳細な傾向のインサイトを確認できるため、経時的パフォーマンスビジネス プロセスパフォーマンスの異常値、パターン、または変化を特定するのに役立ちます。

"傾向"セクション:

- その前の期間と比較した、選択した期間の特定のビジネス プロセスの実行状況を表示します。例: 2025 年第 1 四半期が選択された期間である場合、エージェントは 2026 年第 1 四半期と 2025 年第 4 四半期におけるテナントのビジネス プロセスパフォーマンスを比較します。
- 選択した期間内に開始されて完了するイベントのみが含まれます。エージェントは、ある期間に開始してからそれ以降に完了するイベントを除外します。例: 2026 年第 1 四半期が選択された期間である場合、エージェントは 2026 年第 1 四半期に開始および完了したイベントのみを、2025 年第 4 四半期に開始および完了したイベントと比較します。2026 年第 1 四半期に開始されたイベントが、2026 年第 2 四半期に完了したイベントは除外されます。
- ステータスが"正常完了"、"取消"、"キャンセル"、または"プロセス終了"のイベントが含まれる。
- "完了"ステップの後に設定されたステップは除外されます。このステップを超えてワークフローが進行していても、エージェントはビジネス プロセスを完了したものと見なされます。
- ビジネス プロセスのパフォーマンスの傾向が遅くなった場合に、最適化の推奨事項を表示します。ビジネス プロセスの傾向が前の期間よりも早い場合は、推奨事項は表示されません。
- この傾向の根本原因を特定します。

エージェントは、2 つの期間の間にステップ レベルの実行における重要な変更を特定し、ビジネス プロセスのパフォーマンスの変更に最も大きな影響を及ぼしたステップを特定します。また、特定された各ステップの移行率が計算され、親族影響が表示されます。

異常値と根本原因の特定

ビジネス プロセスを検査すると、異常な実行パターンを参照し、解決または最適化が必要な問題のあるビジネス プロセスを特定できます。

"異常値"セクションでは、以下の処理を行います。

- 実行されていない異常なビジネス プロセスがすべてハイライトされ、指定された期間内に特定のビジネス プロセスがどのように実行されたかが説明されます。
- ステータスが"正常完了"、"取消"、"キャンセル"、または"プロセス終了"のイベントが含まれる。
- 選択した期間より前にイベントが開始された場合でも、選択した期間内に完了するイベントが含まれます。例: 2026 年第 1 四半期が選択期間として選択されている場合、エージェントは、2026 年第 1 四半期に完了したビジネス プロセスの異常値 (2026 年第 1 四半期より前に開始された完了済のイベントを含む) を特定します。
- "完了"ステップの後に設定されたステップは除外されます。このステップを超えてワークフローが進行していても、エージェントはビジネス プロセスを完了したものと見なされます。
- 異常値トランザクションの主な原因と主要なステップがリストされます。

エージェントは、選択した期間で異常として特定されたイベントを分析し、ビジネス プロセスのパフォーマンスに最も大きな悪影響を及ぼしたステップを特定します。

エージェントによって以下が表示されます。

- 期間、差戻し、割当変更など、根本原因について測定されるメトリック。
- 異常の影響を受ける特定のステップには、そのステップが異常として検出されたイベントの件数、それらのイベントにおいてそのステップが要した平均期間、そのステップが発生した合計数 (差戻しや割当変更など) が含まれます。

最適化の推奨事項の生成

BP 最適化エージェントは、傾向に関するインサイトと異常な実行パターンに対して最適化の推奨事項を提供します。エージェントに"傾向" セクションが表示されるのは、ビジネス プロセスの傾向が以前の期間よりも緩やかな場合にのみです。

"傾向と異常"セクションでインサイトをレビューすると、エージェントによって以下の処理が行われます。

- 事前取得データに依存する代わりに、カスタマイズされた推奨事項がリアルタイムで動的に生成されます。この世代プロセスには最大 1 分かかる場合があります。
- 問題のあるビジネス プロセスステップの解決と最適化を支援する、実用的なアドバイスを作成する。BP 最適化エージェント言語モデルは、Workday 管理者ガイド、Workday Community、およびその他の専門家によるWorkdayナレッジ ソースを使用します。
- "もっと詳しく"にリファレンス リンクを提供します (使用可能な場合)。

候補の生成に失敗し、エラーメッセージが表示される場合は、候補の生成を再試行してください。

最適化の推奨事項の実施

BP 最適化エージェントは、報告された異常値に従って推奨事項を調整しますが、生成された最適化の推奨事項を常に慎重にレビューし、組織と特定のビジネス プロセスにどのように適合するかを判断します。提供される推奨事項以外にも、最適化の機会がある可能性があります。

推奨事項を実施したり、ビジネス プロセスの設定を変更したりした後に、以下の処理を行えます。

-
- **"BP Optimize Agent"**ダッシュボードで折れ線グラフを表示します。折れ線グラフを使用すると、ビジネス プロセスのパフォーマンスを分析し、パフォーマンスの変更を特定できます。
- BP 最適化エージェントを使用して、最新の傾向、異常値に関するインサイト、ベンチマークをレビューします。エージェントを繰り返し使用することで、さらなる最適化の機会と推奨事項を特定できます。

参考: BP 最適化エージェントのサンプル プロンプト

Workdayエージェントのチャット バブルアイコン ()をクリックすると、ビジネス プロセスの最適化に関する特定のプロンプトを入力できます。複数のエージェントが設定されている場合は、エージェントチャットにアクセスし、エージェント メニューから**"BP 最適化エージェント"**を選択する必要があります。

プロンプトを効果的に構成するために、これらの例を参照してください。

ユース ケース	サンプル プロンプト
ビジネス プロセスの分析	• 2026 年第 1 四半期においてパフォーマンスが高いビジネス プロセスを期間別に 3 つ表示してください。 • パフォーマンスが低い 3 つの "職務の変更" ビジネス プロセスは何ですか？ • 2025 年 12 月の差戻し数の最低 5 件は何ですか？
傾向分析	• 休暇の申請に関する際の傾向インサイトを共有できますか？ • パフォーマンスの低下を改善するにはどうすればよいですか？ • 2026 年の職務の変更ビジネス プロセスはどのような傾向分析にありますか？
ベンチマーク データ	• データを比較できる地域は何ですか？

ユース ケース	サンプル プロンプト
	- Request Time Off for Financial Services のベンチマークはどのようなものですか？ 2026 年第 1 四半期の欧州地域のジョブへの応募に関するベンチマークはどのようなものですか？
異常値に関するインサイト	2025 年第 4 四半期の異常率が最も高い BP はどれですか？ 2026 年第 1 四半期の職務の変更 BP で異常が発生した主な原因は何ですか？ 2025 年に Web マーケティングの職務への応募の異常値を削除するための推奨事項は何ですか？ - Web マーケティングの職務への応募における開始ステップで、その他の推奨事項を提案できますか？ - 初回の使用時に、ステップごとの推奨手順を提供できますか？

給与管理エージェント

給与管理エージェントの設定

Prerequisites

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA :組織はUMSA にオプトインする必要があります。
- 本稼働テナントで使用するための[Workday Flex クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)にオプトインします。
- [Agent System of Record \(エージェント システム オブ レコード\) の設定](#)
- セキュリティ:
 - "Agent System of Record"業務分野の以下のドメイン:
 - エージェント コンプライアンス
 - エージェント管理ハブ
 - *Manage: Agents*
 - *Reports: Agent Reporting*
 - *Setup: Agents*
 - "System"業務分野の"*Reports: AI Agent Security*"

Context

給与計算エージェントを設定して、給与計算担当者がそのスキルにアクセスして使用できるようにすることが可能です。給与計算エージェントは、会話型 AI を通じてタスクの支援、情報の取得、データの要約を提供します。

Steps

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. "未登録のWorkdayエージェント" タブを選択します。
3. 給与管理エージェントの場合は、"登録"をクリックします。
4. "確認" チェックボックス () をオンにし、"OK"をクリックして登録を完了します。
Workday計算エージェントが "エージェント レジストリ" タブに移動されます。
5. "エージェント レジストリ" タブを選択し、"給与計算エージェント"名をクリックしてエージェントを設定します。
6. エージェントのプロファイル ビューから、"エージェントの設定"をクリックします。
7. "ステータス" 列で、切替スライダー () を有効にすることで、関連する各スキルが使用可能になります。
8. 有効にする "スキル"ごとに、そのスキル " " にアクセス権限を付与するセキュリティ グループを"使用可能"プロンプトに入力します。エージェントの"使用可能"プロンプトに追加されたセキュリティ グループは、エージェントのインタラクションポリシーを設定します。

Note: "使用可能"プロンプトで選択するセキュリティ グループには、給与計算エージェントのツールをセキュリティ保護するドメインまたはビジネス プロセスセキュリティ ポリシーへの権限も必要です。"View Security for Agent Skill"レポートを使用して、エージェントのセキュリティ設定を支援できます。このレポートには、給与計算エージェントのツール API と、それぞれのドメインまたはビジネス プロセスのセキュリティ ポリシーおよび権限に関する詳細情報が表示されます。Workday実行時に、エージェントへのユーザー アクセスと、エージェントがツールとして実行している API へのユーザー アクセスの両方が評価されます。

9. "アクティブ化"をクリックします。任意で、この設定を保存して戻すこともできます。
エージェント設定はいつでも更新できます。給与計算エージェントをアクティブ化すると、エージェントの ASU も自動的にアクティブ化されます。

Result

Workdayチャットにアクセスして、給与計算エージェントを使用できます。

Next Steps

(任意) 以下の追加設定を行います。

- "不足しているデータと設定の特定" スキルの支払オプションが未入力の従業員への通知。
- 最低賃金分析スキル-

(任意) 給与計算エージェントを使用せずに作業が完了場合、"非アクティブ化"をクリックしてエージェントをオフにすることができます。エージェント管理ハブでは、いつでも給与計算エージェントをアクティブ化、非アクティブ化、再アクティブ化できます。エージェントを非アクティブ化すると、そのエージェントの ASU も自動的に非アクティブになります。

概念: 給与計算エージェント

概要

給与管理エージェントは、Workday内での給与計算担当者のエクスペリエンスを向上させるために設計された、AI を活用した会話型アシスタントです。

給与管理エージェントのスキルには以下のものがあります。

- Core Payroll Data Retrieval: エージェントが従業員、支給グループ、会社などに関する基本情報を取得できるようにします。

Note: このスキルは他のスキルの操作に必須です。

- 給与計算データのインサイト: 給与計算に関する知識へのアクセスを提供し、必要に応じて人間の介入を含め、ユーザーにアクションを実行します。
- 欠落しているデータと設定の特定: 給与計算担当者によるアクションを必要とする重要な給与計算データが欠落しているか失効しているのを監視します。
- 最低賃金分析: 米国およびカナダの州において、最低賃金レートの変更が与える影響を分析します。

Note: 使用前に、AI が生成したコンテンツを表示、編集、検証するためのベスト プラクティスを確立しておくことをお勧めします。

給与計算エージェントは、Workday給与計算のすべての国で利用できます。

- Payroll for Australia
- Payroll for Canada
- Payroll for France
- Payroll for Ireland
- Payroll for the UK (英国版給与計算)
- Payroll for the US

制限事項

給与管理エージェントは、以下を実行します。

- 進化するテクノロジーである会話型 AI を使用する。高精度を実現するように構築され、テストされていますが、質問を誤って解釈したり、予期しない結果が得られたりすることがあります。数値と注釈を含む出力を常にレビューする。結果に対処する前に、その結果を信頼できる情報源に照らし確認します。
- 上位目標のは米国英語のみです。
- 連続して記憶するインタラクションは 20 件までです。

プロキシ セッションでは、給与計算エージェントの機能は除外されます。

エージェントのスキルの一部の機能は、特定の国にのみ適用されます。例: "欠落しているデータと設定の識別" スキルは、米国の給与計算で有効期限が切れる公正労働基準法の従業員期間カレンダーの検索と更新にのみ使用できます。

以下が可能になります。

- エージェントの回答で一時的な遅延が発生しています。
- 給与計算エージェントのスキルに関係しない質問について、エージェントからの回答を受け取る。

支払オプションが不明な従業員に関する欠落データと設定通知の設定

Prerequisites

セキュリティ: "Core Payroll" 業務業務分野の "Worker Data: Payroll (Payment Elections)" ドメイン

Context

給与管理エージェントを設定すると、すぐにWorkdayチャットで "Identify Missing Data and Configuration" スキルを使用できるようになります。

デフォルトでは、支払オプションが未入力の従業員が、"テナント設定の編集 - 通知" タスクの "給与計算" タブで設定された親通知タイプ設定に基づいて通知を受け取ります。参考: [テナント設定の編集 - 通知](#) を参照してください。

"支払オプションのない従業員の検索" ジョブを開始と、支払スキルのない従業員に "Workdayインボックス"通知が自動的に送信されます。

以下を実行することもできます。

- 支払オプションのない従業員に E メール通知が追加で送信されるように、Workday設定の上書きを設定します。
- 従業員が受信する E メール通知の内容をカスタマイズします。

E メール通知を従業員に通知する場合は、"固有のデータと設定の識別" スキルを使用する前に、送信設定の上書きを設定する必要があります。

Steps

1. 支払オプションが未入力の従業員への E メール通知について、配信の上書きを設定します。

- a) "テナント設定の編集 - 通知" タスクにアクセスします。
- b) "通知配信設定" セクションで、"給与計算" タブを選択します。
- c) "通知タイプ"列で、"支払オプション不明"を選択します。
- d) "親通知タイプ設定の上書き"チェックボックスをオンにします。
- e) "ルール"プロンプトから、"通知ルーティング ルールの作成" を選択します。
- f) "通知ルーティング ルールの作成"セクションを完了させます。

オプション	説明
通知タイプの用途	"支払オプション不明"を選択します。
チャネル頻度	"追加" をクリックします。
チャネル	"E メール" を選択します。
デフォルト頻度	"即時" を選択します。

- g) "OK" をクリックします。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Set Up: Tenant Setup - BP and Notifications" ドメイン

2. 支払オプションが不明な従業員に送信される通知のデフォルトのE メール テンプレートを表示し、変更が必要かどうかを確認します。

- a) "E メール テンプレートの動作" レポートにアクセスします。
- b) "E メール テンプレートの動作" 列のタイトルを選択します。
- c) "値"プロンプトから"支払オプション不明"を選択します。
- d) "フィルタ" をクリックします。
- e) "支払オプション不明の E メール テンプレートの動作"を選択して、E メール テンプレートの動作を表示します。

3. 支払オプションのない従業員に送信される通知のデフォルトE メール テンプレートを編集します。

- a) "E メール テンプレートの作成" タスクにアクセスします。
- b) "E メール テンプレートの作成" セクションを完了させます。

オプション	説明
E メール テンプレートの動作	"支払オプション未指定"を選択します。

- c) "OK" をクリックします。
- d) "行を追加" アイコンをクリックして、以下の行をグリッドに追加します。

順序	説明
1	1. "静的コンテンツ"を選択します。

順序	説明
	"静的コンテンツ"プロンプトから、"静的 E メール テキストの作成" を選択します。 "テキスト" フィールドに、通知のヘッダーとして表示するコンテンツを入力します。
2	"静的コンテンツ"を選択します。 "静的コンテンツ"プロンプトから、"静的 E メール テキストの作成" を選択します。 "テキスト" フィールドに、通知の本文として表示するコンテンツを入力します。
3	"動的コンテンツ"を選択します。 "動的静的コンテンツ"プロンプトから"アクション可能なリンク"を選択します。

e) "OK" をクリックし、"完了" をクリックします。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Set Up: System"

4. 作成したカスタムE メール テンプレートが現在アクティブであることを確認します。

- "E メール テンプレートの管理" タスクにアクセスします。
- "不明な支払オプションについて E メール"行で、カスタムE メール テンプレートの"アクティブ"チェックボックスがオンになっていることを確認します。
- "OK" をクリックします。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Set Up: System"

Result

E メール通知を設定したら、以下を行います。

- 支払オプションのない従業員は、Workdayで E メール アドレスを設定している場合、Workday インボックスと E メールインボックスの両方の通知を受け取ります。
- 従業員が受け取る通知には、カスタマイズした内容が含まれます。

最低賃金分析スキルの設定

Prerequisites

セキュリティ:

- 以下の業務分野の "Set Up: Minimum Pay Agent" ドメイン
 - CAN 給与計算
 - USA 給与計算
- "CAN Payroll" 業務分野の "Set Up: Payroll (Minimum Wages View) - CAN" ドメイン
- "USA Payroll" 業務分野の "Set Up: Payroll (Minimum Wages View) - USA" ドメイン
- "Core Payroll" 業務分野の "Set Up: Payroll (Taxes View)" ドメイン

Context

給与計算エージェントを使用して、米国の州およびカナダの州における新しい最低賃金レートを分析できます。"最低賃金分析" スキルを使用するには、以下のステップに従ってテナントを設定して、関連する給与計算データにアクセスするために必要な権限を給与計算管理者が持てるようにする必要があります。

AI が生成したコンテンツを使用する前に、その正確性をレビュー、編集、検証するためのベスト プラクティスを設定することをお勧めします。

Steps

1. "Set Up: Minimum Pay Agent" ドメインを有効にします。
 - a) "ドメインの表示" レポートにアクセスします。
 - b) "ドメイン" プロンプトから、"Set Up: Minimum Wage Agent" を選択します。
 - c) "ドメイン セキュリティ ポリシー" の横にある虫眼鏡アイコンをクリックします。
 - d) "レポート/タスクの権限" で、セキュリティ グループに "表示" および "変更" のアクセス権があることを確認します。
 - e) (任意) "編集権限" をクリックします。
セキュリティ グループを編集し、必要に応じて "表示" および "変更" チェックボックスをオンにします。
 - f) "OK" をクリックし、"完了" をクリックします。
 - g) (任意) [処理待ちのセキュリティ ポリシーの変更をアクティブ化します](#)。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Security Configuration" ドメイン

2. 最低賃金バックグラウンド スケジューラを有効にしてください。
 - a) "テナント設定の編集 - 給与計算" タスクにアクセスします。
 - b) "税オプション/税" セクションで、"最低賃金バックグラウンド スケジューラ" チェックボックスをオンにします。
 - c) "OK" をクリックし、"完了" をクリックします。

最低賃金バックグラウンド スケジューラを有効にした場合、以下のようになります。

- 給与計算エージェントでは、変更された最低賃金レートの見積雇用主負担分のみが表示され、給与計算管理者が翌日の 01:00 (太平洋標準時) 以降に Workday チャットで確認できるようになります。
- 雇用主負担分の見積の計算では、最低賃金を強制する時給プランの割当がある従業員のみが対象となります。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Set Up: Tenant Setup - Payroll" ドメイン

Result

Workday チャット:

- 新しい最低賃金レートに関連するクエリーを に入力できます。
- 給与計算エージェントは、新しい最低賃金レートが雇用主負担分にどのように影響するかについての分析を生成します。

概念: 欠落しているデータと設定スキルの特定

概要

給与計算エージェントの "特定" スキルを使用すると、以下のことが可能になります。

- 注意が必要なデータと設定を見つけることによって、給与計算処理を効率化します。
- 潜在能力問題を事前に解決ためのアクションを実行します。

このスキルにより、以下が可能になります。

- ・ 給与計算にとって重要なデータおよび設定が失効しているか、欠落している請求書を監視して特定する。
- ・ 通知の送信や更新など、データと設定の問題を解決ためのアクションを実行する。

このスキルを使用して、以下を検索できます。

- ・ "支払オプションタスクの管理" タスクの "給与計算ルール" を使用して、支給タイプの支払オプションが不明な従業員に通知します。この機能は、Workday給与計算のすべての国に適用可能です。
- ・ 現在の日付から 90 日以内に有効期限が設定されている公正労働基準法カレンダーを更新します。この機能は、米国の給与計算にのみ適用されます

アクセス方法

テナントの給与管理エージェントにアクセスする前に、以下を用意する必要があります。

- ・ 従業員の支払オプション [ステップ: 支払オプションの設定](#) を参照してください。
- ・ 公正労働基準法の勤務期間カレンダー。 [公正労働基準法の勤務期間カレンダーの作成 \(米国\)](#) を参照してください。

また、スキルのさまざまな機能を使用するには、特定のセキュリティ ドメインへのアクセス権も必要です。

ドメイン	機能
"Core Payroll"業務分野の "Worker Data: Payroll (Payment Elections)"ドメイン	支払オプションのない従業員を検索して通知
"USA Payroll"業務分野の "Set Up: Payroll (FLSA) - USA"ドメイン	有効期限が近い公正労働基準法の勤務期間カレンダーの検索と更新

"特定のデータと設定"スキルを使用するには、次のようにします。

1. Workday管理エージェントを設定し、割り当てられたセキュリティ グループ ()に属したら、上部のナビゲーション バーからバブル
2. 検索と以下の処理に関連するクエリーを入力します。
 - ・ 支払オプションのない従業員への通知。
 - ・ 有効期限が切れる公正労働基準法カレンダーの更新。

支払オプションが未入力の従業員に関する通知

"支払オプションが未入力の従業員の検索" ジョブを開始には、"特定のデータと設定"スキルを使用します。

支払オプションの不明に関するWorkday員への通知方法を設定するには、次を参照してください。 [支払オプションが不明な従業員に関する欠落データと設定通知の設定](#) -

給与計算エージェントを使用して支払オプションのない従業員を検索場合、プロセスが完了すると、Workdayアイコンに通知が自動的に通知されます。

受け取る通知には、以下のような詳細が含まれます。

- ・ 従業員に関連する支給グループ
- ・ 支払オプションが未入力の従業員。
- ・ 給与管理エージェントによって特定されたWorkday員に通知済かどうか。

公正労働基準法カレンダーの期限切れの通知

"不足しているデータと設定の識別" スキルを使用して "公正労働基準法の勤務期間カレンダーの更新のジョブ"ジョブを開始します。

給与計算エージェントを使用して有効期限が切れる公正労働基準カレンダーを更新する場合、プロセスが完了するとベルアイコンに通知が自動的に通知されWorkday。

受け取る通知には、以下のような詳細が含まれます。

- 更新済み公正労働基準法の勤務期間カレンダーの名称です。
- 追加するようリクエストした勤務期間数。

欠落しているデータと設定を特定するためのクエリーの例

- 給与計算に関連する欠落しているデータと設定を検索、それにアクションする必要があります。何かお手伝いできることはありますか？
- 有効期限が近い公正労働基準法の勤務カレンダーの特定と更新。
- 支払オプションのない従業員を検索して通知します。

概念: 最低賃金分析スキル

概要

給与計算エージェントの "最低賃金分析" スキルは、最低賃金レートとコストに関連するコンテキストデータ分析とインサイトを提供します。

このスキルを使用すると、過去 6 か月または将来 6 か月以内に変更された最低賃金レートの影響をレビューおよび分析できます。給与管理エージェントにクエリーを実行すると、Workday は AI を使用して雇用主負担分の見積と、米国およびカナダにおける新しい最低賃金レートから影響を受ける社員の数に関する分析を生成します。

このスキルは、以下にのみ適用されます。

- Payroll for the US
- Payroll for Canada

アクセス方法

このスキルにアクセスするには、必要なデータと権限を設定する必要があります。を参照 [最低賃金分析スキルの設定](#) -

ホームページからWorkdayチャットにアクセスして、最低賃金レートに関連するクエリーを入力します。

制限事項

"最低賃金分析" スキルは、米国の州およびカナダの州における新しい最低賃金レートの分析にのみ使用できます。

クエリーの例

- この都道府県/州の最低賃金はいくらですか？
- この日付の州/県の最低賃金レートは何ですか？
- 最低賃金の変更によって影響を受ける従業員は何人ですか？
- この最低賃金レートが雇用主負担分全体にどのように影響するかを示してください。

概念: 給与計算データのインサイト スキル

概要

給与計算エージェントの "給与計算データのインサイト" スキルを使用すると、給与計算に関する知識にアクセスして質問の答えが見つかるようになります。必要なデータについて、シンプルな会話形式で質問をし、答えを受け取ることができます。こうすることで、レポートの生成にかかる手作業と時間を節約できるため、データを直接提供していただくことで、カスタム レポートを作成する必要がなくなる可能性があります。

例: 検証の場合、給与計算管理者は特定のデータ ポイントを必要とします。複数のレポートを実行する代わりに、「毎週または2週間でシステム内のすべての支給グループを表示してください」など、自然言語で質問できます。また、「表示する」などのフォローアップの質問をすることもできます。[導入済の週次支給グループ1] で、最後に完了した支給期間の総額が 4,000 を超える従業員全員。"その後、エージェントはスクリーニングにデータを提供します。インサイトと分析が自然言語で提供され、データが直感的な方法で表示されます。

アクセス方法

Workday管理エージェントを設定し、割り当てられたセキュリティ グループ () に属したら、上部のナビゲーション バーからバブル

制限事項

現在、給与計算データのインサイトスキルは以下のタイプの質問に回答できます。

質問タイプ	例
平均	過去 3 期間における [支給グループ] 内の従業員の平均総支給額は、いくらですか？
基本従業員支給	前期間の [従業員] [総支給額または純支給額] は何でしたか？
基本支給グループの支給	[支給グループ] において、[Monthly] に [amount] を超える従業員をすべて表示してください
基本支給グループ情報	月単位のスケジュールで支払を行うのは、どの支給グループですか？
支給または控除の対象	現在の値ですべての支給と控除を一覧表示します。
支給または控除の除外	[支給グループ] で、過去の期間に [一部の支給/控除] がなかった従業員は誰ですか？
期間比較	[支給グループ名] の総支給額を 2025 年第 1 四半期と 2026 年第 1 四半期に比較

FAQ: 給与管理エージェント

給与管理エージェントはセキュリティを考慮していますか？	はい。給与管理エージェントは、給与計算について既存のセキュリティを適用します。
エージェント管理ハブを表示できないのはなぜですか？	以下を確認する必要があります。 • "Agent System of Record"業務分野が設定され、有効化されている。 • 適切なユーザーがエージェント管理ハブにアクセスするための正しいセキュリティドメインに属している。
給与計算エージェントが回答できるのはどのような質問ですか？	使用するスキルに応じて、給与計算エージェントが対応できる質問に関する詳細については、以下のトピックを参照してください。 • 概念: 給与計算データのインサイト スキル • 概念: 欠落しているデータと設定スキルの特定 • 概念: 最低賃金分析スキル

給与計算エージェントが、チャットの開始前の処理に対応しているようです。どうすればよいですか？	別の方法で質問するか、新しいスレッドを開始してみてください。
給与計算エージェントが、報酬プラン、コストセンター、または時間外などの特定の給与計算に関連する質問に回答できないのはなぜですか？	給与管理エージェントは、現在、以下に関連する質問のみをレビューして回答できます。 • 給与計算結果 • 結果行 • 基本従業員情報 • 支給グループ情報

Sana セルフサービス エージェント

セルフサービス エージェントの設定

Prerequisites

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントには uMSA が必須です。非本稼働テナントでは、自己構築エージェントのため uMSA は必須です。

- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)へのオプトイン。本稼働テナントでの使用にのみ必須。
- [エージェント システム オブ レコードを設定します。](#)
- セキュリティ: "Agent System of Record"業務分野の以下のドメイン:
 - エージェント コンプライアンス
 - エージェント管理ハブ
 - *Manage: Agents*
 - *Reports: Agent Reporting*
 - *Setup: Agents*
- セキュリティ: "System" 業務分野の以下のドメイン:
 - *Reports: AI Agent Security*
 - *Workday Graph API*アプリケーション。"表示" および "変更" 権限("レポート/タスク" および "インテグレーション")。すべての社員/ユーザーにアクセス権が付与されるように、これらの権限を"*All Employees*"または"*All Users*"セキュリティ グループに割り当てることを検討してください。

Context

エージェント管理ハブを使用して、Workdayにセルフサービス エージェントを登録、設定、アクティブ化できます。

Steps

1. "エージェント管理ハブ"レポートにアクセスします。
2. "未登録のWorkdayエージェント" タブを選択します。
3. "セルフサービス エージェント"については、"登録"をクリックします。
4. "確認" チェックボックス ()をオンにし、"OK"をクリックして登録を完了します。
Workdayサービス エージェントが "エージェント レジストリ" タブに移動されます。
5. "エージェント レジストリ" タブを選択し、"セルフサービス エージェント"名をクリックしてエージェントを設定します。
6. エージェントのプロファイル ビューから、"エージェントの設定"をクリックします。
7. "ステータス" 列から切替スライダー ()を有効にすることで、関連する各スキルが使用可能になります。
8. 使用可能な各スキルについて、そのスキル"" にアクセス権を付与するセキュリティ グループを"使用可能"プロンプトに入力します。

例: "ESS - Human Capital Management - Base"スキルの場合、社員にこのスキルへのアクセス権を付与するには"Employee As Self"セキュリティ グループを選択し、"MSS - Human Capital Management - Base"スキルでは"マネージャ"および"レポートライン"のセキュリティ グループを選択します。レポートラインに含まれるマネージャがスキル""にアクセスできます。

Note:

Workdayへのユーザー アクセスと、エージェントが実行時にツールとして実行している API へのユーザー アクセスの両方が評価されるため、"使用可能"プロンプトにあるセキュリティ グループと、"ツール"権限を持つセキュリティ グループとの整合性を評価することをお勧めします。エージェントは実行する可能性があります。その一環として、セキュリティに関するその他のトラブルシューティングについて[セルフサービス エージェントの FAQ](#)を参照することもお勧めします。

デフォルトで、"Available To"セキュリティ グループとして"Employee as Self"が割り当てられ、ESS スキルがWorkdayに設定されます。

これらのデフォルト値は上書きできますが、ガイドスキルは常にアクティブにしておく必要があります。これはエージェントを実行する上で必須となるコアスキルです。

9. "アクティブ化"をクリックします。

Result

グローバル ナビゲーションにWorkdayWorkdayバブルアイコンが表示され、自分とその社員が表示されます。各スキルに指定されたセキュリティ グループ、および各スキルを構成する API に関連付けられたドメインまたはビジネス プロセス セキュリティ ポリシーにアクセスできる社員は、セルフサービス エージェントを利用できます。

概念: セルフサービス エージェント

セルフサービス エージェントについて

セルフサービス エージェントは、社員とマネージャがWorkdayや Sana で以下のようなセルフサービス アクションを実行できるようにする、会話型 AI エージェントです。

- 最近の給与明細の表示、個人情報の更新、休暇の申請など、Workdayデータに関するアクション可能な情報の取得
- 組織目標の管理とチームのラーニング ステータスの表示。
- Workdayに保存されているナレッジ記事から組織のポリシー情報を表示する。

スキル - ESS と MSS

セルフサービス エージェントは、社員セルフサービス (ESS) タスクとマネージャセルフサービス (MSS) タスクの両方のスキルを上位目標。一部のスキルは、社員またはマネージャ向けに設計され、社員やマネージャ向けに設計され、社員やマネージャに有効な ESS または MSS のいずれかが付与されます。

Note:

デフォルトで、**"Available To"**セキュリティ グループとして *"Employee as Self"* が割り当てられ、ESS スキルが Workday に設定されます。

これらのデフォルト値は上書きできますが、ガイドスキルは常にアクティブにしておく必要があります。これはエージェントを実行する上で必須となるコアスキルです。

スキル - 基本と詳細

セルフサービス エージェントは、基本スキルと詳細スキルを上位目標。基本スキルは単純なアクションをサポートし、高度なスキルはより複雑なアクションをサポートします。エージェントのスキルを設定すると、スキルの説明で各スキルが対象とする内容を確認できます。

Note: Workday へのユーザー アクセスと、エージェントが実行時にツールとして実行している API へのユーザー アクセスの両方が評価されるため、**"使用可能"**プロンプトにあるセキュリティ グループと、**"ツール"**権限を持つセキュリティ グループとの整合性を評価することをお勧めします。エージェントは実行する可能性があります。その一環として、セキュリティに関するその他のトラブルシューティングについて [セルフサービス エージェントの FAQ](#) を参照することをお勧めします。

エージェント アカウント

"System"業務分野の *"Domains: Workday Accounts"* ドメインにセキュリティ保護された (されている、済の)"すべての AI エージェント アカウント"レポートを使用して、テナント内のすべてのエージェント アカウントを表示できます。レポートで、虫眼鏡アイコンの横にある **"Workday アカウント"** 関連アクションをクリックして、**"監査証跡を表示"** に設定します。

セルフサービス エージェントに関するその他の考慮事項

セルフサービス エージェントは現在、システム導入者およびプロキシ アカウントでの使用をサポートしていません。

セルフサービス エージェントをアクティブ化し、少なくとも 1 つのスキルを有効にすると、Workday Assistant のチャット バブルを非表示しない、UI の重複を減らします。別のエージェントをアクティブ化すると、例: 給与計算エージェントでセルフサービス エージェントではない - UI に 2 つのチャット バブルアイコン (Workday Assistant と Workday チャット) が表示される場合があります。

セルフサービス エージェントは、エージェント システム ユーザー (ASU) フレームワークが委任セキュリティ モデルをまだサポートしていないため、委任アクションをサポートしていません。その結果、委任先がセルフサービス エージェントを介して開始したアクションは、最初はチャット ウィンドウに成功したように表示されても、システム内に実際のイベントやリクエストは作成されない可能性があります。この問題の解決に向けて、積極的に取り組んでいます。

例: セルフサービス エージェントを使用した休暇の管理

Prerequisites

- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)へのオプトイン。本稼働テナントでの使用にのみ必須。
- フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントには uMSA が必須です。非本稼働テナントでは、自己構築エージェントのため uMSA は必須です。

- [Agent System of Record \(エージェント システム オブ レコード\) の設定](#)
- [セルフサービス エージェントの設定](#)
- 休暇の申請REST API - 休暇の申請 BP の開始アクションとして必須。
- セキュリティ: "Time Off and Leave"業務分野の "Request Time Off"ドメイン

Context

この例では、Workdayでセルフサービス エージェントを使用して休暇を台帳および管理する方法を示します。

シナリオ:

会社休日と有給休暇に基づいて、今年の休暇を効果的に使用する方法を把握したいと考えています。レポートと会社のポリシーを比較するのではなく、テキスト形式で、休暇を最適化して計画する最適な方法を選択します。

Steps

1. グローバル 上にあるナビゲーション バーにあるWorkdayチャットアイコンをクリックして、セルフサービス エージェントにアクセスします。
2. 休暇残数 ()に関するセルフサービス エージェントに質問するプロンプトを入力してください。例:今四半期に休暇を取得したいです。私は何日まで取得する必要がありますか？会社休日や研究休暇を含める。
このエージェントから、以下のような追加情報を明らかにするようプロンプト場合があります。
 - 休暇タイプを示します。
 - 時間の候補
3. エージェントに回答して、リクエストを確認します。
4. 今後の各四半期についてセルフサービス エージェントに質問して、このプロセスを繰り返します。
例:次の四半期についてその場合、何日までに取得できますか？

Result

エージェントには、リクエストの詳細が表示されます。

Next Steps

情報をレビューして確定します。

参考: セルフサービス エージェントのスキル

スキル	説明
ESS - ヘルプ - 高度なスキル	サポート リクエストの送信アクションを円滑化することで、社員が情報収集からアクティブ サポートに移行できるようにします。
ESS - タレント マネジメント - 高機能表示	社員がセルフサービス エージェントを使用して、個人データを更新し、証明書/リファレンス レターをリクエストすることで、ワークフォースライフサイクルに関連するアクションを実行できるようにします。
ESS - ヒューマン キャピタル マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、従業員プロフィール、報酬と福利厚生の詳細、チーム情報など、コア HCM 機能の個人情報の取得に関連する社員からのリクエストを処理できるようにします。

スキル	説明
ESS - 給与計算 - 基本	セルフサービス エージェントが、報酬、支払、税金フォームに関する社員からのリクエストを処理できるようにします。
ESS - タレント マネジメント - 高機能表示	社員がセルフサービス エージェントを使用して、パフォーマンス レビューの送信、紹介の作成、目標の作成などの複雑なワークフォースタスクに関連するアクションを実行できるようにします。
ESS - タレント マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、パフォーマンス 目標、フィードバック履歴、社内のジョブリストなど、社員の専門能力開発に関連する情報を取得能力ようにします。
ESS - ワークフォース マネジメント - 高機能表示	社員がセルフサービス エージェントを使用して、休暇の申請、シフトのチェックイン/チェックアウト、時間ブロックの入力、時間の送信など、複雑なワークフォースタスクに関連するアクションを実行できるようにします。
ESS - ワークフォース マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、タイム トラッキング、スケジューリング、休暇・休暇の情報を取得能力にします。このスキルは、休暇残数の確認や勤務スケジュールの表示などの問い合わせに対応します。
ガイド	インテリジェントなナビゲーションを利用できるため、必須特定のWorkdayレポートやタスクにユーザーを誘導することで、タスクを確実に完了させることができます。 Note: このスキルはセルフサービス エージェントが "" を関数ために必須です。
MSS - ヒューマン キャピタル マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、チーム構造、職歴、直属部下情報などの重要なチーム情報の取得に関連するマネージャからのリクエストに対応できるようにします。
MSS - 給与計算 - 詳細	セルフサービス エージェントが、給与計算入力のリクエストなど、財務アクションの開始に関連するマネージャからのリクエストを処理できるようにします。 スキル - 既存の "給与計算入力のリクエスト" ビジネス プロセスを呼び出す。 - 既存の給与計算およびセキュリティ設定を使用する。 - セルフサービス エージェントで設定した支給コンポーネントのセキュリティセグメントとドメインのセキュリティが考慮される。 このスキルは、Workday給与計算の従業員に焦点を当て、以下の主要ルールを適用します。

スキル	説明
	- Workday給与計算で従業員についてのみ給与計算入力を作成します。従業員の主ポジションが外部支給グループに含まれている場合、または従業員に支給グループがない場合、スキルはリクエストをブロックし、従業員は給与計算入力リクエストに対応できないというメッセージを返します。 - 複数のジョブを持つ従業員の場合、マネージャがポジション () を指定せずにポジション () ベースの入力をリクエストすると、スキルによって入力がデフォルト値として設定されます。このスキルは、入力開始日に有効になる従業員の主ポジションに設定されます。
MSS - タレント マネジメント - 詳細	セルフサービス エージェントが、マネージャのパフォーマンス サイクルの推進をサポートし、レビューの実施、タレント データの変更、チーム開発トランザクションの実行などのアクションを実行できるようにします。
MSS - タレント マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、目標の進捗状況の取得、ラーニング ステータスの表示、チームフィードバックの確認などを行うことで、マネージャがチームの能力開発を監督できるようにサポートします。
MSS - ワークフォース マネジメント - 基本	セルフサービス エージェントが、チームの運用に関する情報の取得に関連するマネージャからのリクエストを処理できるようにします。これには、直属部下の休暇残数と現在のスケジュールなども含まれます。
ポリシー インテリジェンス	セルフサービス エージェントが、認可済ドキュメントを検索して会社のルールに関する質問を解決するのに関連する機能を提供します。このスキルは、ポリシー文書や手続きガイドから特定の詳細を取得し、回答が準拠して最新の状態であることを確認します。

参考: セルフサービス エージェント ツールのセキュリティ要件

このトピックでは、セルフサービス エージェントの各スキルにおける、汎用ツールのセキュリティ要件について説明します。

Note:

各ドメインは、単語 "" または "" で区切られない限り、リストされている必要があります。そのケース、必要なドメインは 1 つだけです。

ESS - ヘルプ

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
create_case	"Help"業務分野の"Self	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Service: Help Case Management"</i> ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports"</i> ドメイン			
create_case	"Help"業務分野の" <i>Self Service: Help Case Management"</i> ドメイン	変更		

ESS - ヒューマン キャピタル マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
change_home_contact	"Staffing"業務分野の" <i>Worker Data: Public Worker Reports"</i> ドメイン	表示	自宅の連絡先の変更	自宅の連絡先情報の変更 (REST サービス)
change_home_contact_info	"Contact Information"業務分野の" <i>Self-Service: Home Address"</i> ドメイン "Contact Information"業務分野の"<i>Self-Service: Home Email"</i> ドメイン "Contact Information"業務分野の"<i>Self-Service: Home</i>	変更	自宅の連絡先の変更	自宅の連絡先情報の変更 (REST サービス)

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Phone"ドメイン			
change_marital_status	"Personal Data"業務分野の"Self-Service: Maria Status"ドメイン "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示	個人情報の変更	個人情報の変更 (REST サービス)
change_marital_status	"Personal Data"業務分野の"Self-Service: Maria Status"ドメイン	変更	個人情報の変更	個人情報の変更 (REST サービス)
change_legal_name	"Personal Data"業務分野の"Self-Service: Legal Name"ドメイン "Staffing"業務分野の"Self-Service: Current Staffing Information"または"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示	戸籍氏名の変更	戸籍氏名の変更 (REST サービス)
change_preferred_name	"Personal Data"業務分野の"Self-Service: Preferred Name"ドメイン "Staffing"業務分野の"Self-	表示	通称氏名の変更	通称氏名の変更 (REST サービス)

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Service: Current Staffing Information"</i> または <i>"Worker Data: Public Worker Reports"</i> ドメイン			
request_reference_letters	自分自身の紹介状をリクエストする "Worker Profile and Skills" 業務分野の "Search: Find Worker" ドメイン "Staffing"業務分野の "Self-Service: Current Staffing Information" ドメイン "Staffing"業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン 他者の紹介状のリクエスト "Staffing"業務分野の "Set Up: Reference Letter Security Segments" ドメイン "Staffing"業務分野の "Worker Data: Active	表示	証明書/リファレンス レターのリクエスト	従業員の証明書/リファレンス レターの作成 (Graph API)

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Employees"</i> ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports"</i>ドメイン "Staffing"業務業務分野の"<i>Worker Data: Business Title"</i>または"<i>Worker Data: Current Staffing Information"</i>または"<i>Worker Data: Management管</i>理"ドメイン			
view_bonus_history	"Core Compensation"業務分野の" <i>Self-Service: Compensation"</i> ドメイン	表示		
view_coworker_info	"Worker Profile and Skills"業務分野の"<i>Search: Find Worker"</i>ドメイン "Contact Information"業務分野の"<i>Person Data: Home Email"</i>ドメインまたは"<i>Self-Service: Home</i>	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Email</i>"ドメイン、または"<i>Staffing</i>"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン • "<i>Contact Information</i>"業務分野の"<i>Person Data: Work Email</i>"ドメインまたは"<i>Self-Service: Work Email</i>"ドメイン、または"<i>Staffing</i>"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン • "<i>Contact Information</i>"業務分野の"<i>Person Data: Home Phone</i>"ドメインまたは"<i>Self-Service: Home Phone</i>"ドメイン、または"<i>Staffing</i>"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン • "<i>Contact Information</i>"			

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	業務業務分野の"Person Data: Home Address"または"Self-Service: Home Address"ドメイン • "Staffing"業務業務分野の"Self-Service: Current Staffing Information"または"Worker Data: Business Title on Worker Profile"ドメイン • "Staffing"業務業務分野の"Worker Data: Current Staffing Information"ドメインまたは"Worker Data: Management Check"ドメイン			
view_dependents	• "Benefits"業務分野の"Self-Service: Dependent Identifiable Data"ドメイン。 • "Benefits"業務分野の"Self-Service: Dependent	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Identifiable Data Tobacco Use</i> ドメイン。 "Benefits"業務分野の"<i>Self-Service: Dependents</i>"ドメイン			
view_healthcare_elections	"Benefits"業務分野の" <i>Self-Service: Benefits Elections</i> "ドメイン。 "Benefits"業務分野の"<i>Self-Service: Retirement Savings</i>"ドメイン。	表示		
view_my_team	"Staffing"業務分野の"<i>Reports: Manager</i>"ドメイン、または "Staffing"業務分野の"<i>Reports: Matrix Manager</i>"ドメイン、または "Worker Profile and Skills" 業務分野の"<i>Search: Find Worker</i>"ドメイン、または "Core Compensation" 業務分野の"<i>Worker Data:</i>	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Compensation for Managers</i>"ドメイン、または"<i>Worker Data: Compensation for Managers</i>"ドメイン。 "<i>Staffing</i>"業務業務分野の"<i>Data: Current Staffing Information</i>"ドメイン "<i>Staffing</i>"業務業務分野の"<i>Self-Service: Current Staffing Information</i>"または"<i>Worker Data: Business Title on Worker Profile</i>"ドメイン			
view_org_info	"Organizations and Roles"業務分野の" <i>Reports: Organization</i> "ドメイン	表示		
view_personal_info	"<i>Staffing</i>"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン "<i>Staffing</i>"業務分野の"<i>Self-Service: Current Staffing</i>"	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Information"ドメイン</i> • "Staffing"業務分野の<i>"Self-Service: Service Dates"</i>ドメイン • "Personal Data"業務分野の<i>"Self-Service: Date of Birth"</i>ドメイン。 • "Contact Information"業務分野の<i>"Self-Service: Home Email"</i>ドメイン • "Contact Information"業務分野の<i>"Self-Service: Work Email"</i>ドメイン • "Contact Information"業務分野の<i>"Self-Service: Home Phone"</i>ドメイン • "Contact Information"業務分野の<i>"Self-Service: Work Phone"</i>ドメイン • "Talent Pipeline"業務分野の<i>"Worker"</i>			

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Data: Succession</i>"ドメイン "Talent Pipeline"業務分野の"<i>Worker Data: Succession</i>"ドメイン "Staffing"業務業務分野の"<i>Worker Data: Current Staffing Information</i>"ドメインまたは"<i>Worker Data: Management Check</i>"ドメイン "Staffing"業務業務分野の"<i>Worker Data: Anniversaries/Birthdays Reports</i>"または"<i>Worker Data: Current Staffing Information</i>"ドメイン			
view_retirement_savings	"Benefits"業務分野の"<i>Self-Service: Benefits Elections</i>"ドメイン。 "Benefits"業務分野の"<i>Self-Service: Retirement</i>	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Savings"ドメイン。			
view_total_compensation	"Core Compensation"業務分野の"Self-Service: Compensation"ドメイン • "Core Compensation"業務分野の"Self-Service: Compensation Salary Grade"ドメイン • "Core Compensation"業務分野の"Self-Service: Compensation Basis"ドメイン • "Advanced Compensation"業務分野の"Self-Service: Compensation Management"ドメイン • "Core Compensation"業務分野の"Self-Service: Total Base Pay Range"ドメイン	表示		

ESS - 給与計算

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
view_direct_deposit	"Expenses" 業務業務分野の "Self-Service: Payment Election" ドメイン "Core Payroll" 業務業務分野の "Self-Service: Payroll (My Payment Elections)" ドメイン "給与計算インターフェイス" 業務業務分野の "Self-Service: 給与計算インターフェイス (Payment Elections)" ドメイン "Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン	表示		
view_next_paydate	"Expenses" 業務業務分野の "Self-Service: Payment Election" ドメイン "Core Payroll" 業務業務分野の "Self-Service: Payroll (My Payment	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Elections</i>)"ドメイン "給与計算インターフェイス"業務業務分野の"<i>Self-Service: 給与計算インターフェイス (Payment Elections)</i>"ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン			
view_next_paydate	"Core Payroll"業務分野の"<i>Self-Service: Payroll (My Payslips)</i>"ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン	表示		
view_payslips	"Core Payroll"業務分野の" <i>Self-Service: Payroll (My Payslips)</i> "ドメイン	表示		
view_w2	"USA Payroll"業務分野の"<i>Self-Service: Payroll (My Tax Documents) - USA</i>"ドメイン。	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	"Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン			
view_w4	"USA Payroll"業務分野の"Self-Service: Payroll (My Withholding Elections) - USA"ドメイン。 "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示		

ESS - タレント マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
create_referral	"Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン "Recruiting"業務分野の"Internal Careers"ドメインまたは"Recruiting Agency Careers"ドメイン	表示	候補者の紹介	候補者の紹介 (Graph API)
find_job_requisition	"Staffing"業務分野の"Worker Data: Public	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Worker Reports"ドメイン "Staffing"業務分野の"Worker Data: Organizations"ドメイン "応募者プロセス"業務分野の"Job Requisition Data"ドメイン "Recruiting"業務分野の"Job Requisitions for Recruiting"ドメイン			
find_jobs	"Recruiting"業務分野の"Internal Careers"ドメイン	表示		
start_my_performance_review	Performance Enablement "業務分野の"Self-Service: Performance Reviews"ドメイン	表示	パフォーマンスレビューの開始	Start Performance Review (REST Service)
view_feedback	自身に関するフィードバックを表示 "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン "Worker Profile and Skills" 業務分野の "Search: Find Worker" ドメイン	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	"Staffing"業務分野の "Worker Data: Current Staffing Information" ドメイン "Performance Enablement "業務分野の "Self-Service: Anytime Feedback" ドメイン "Staffing"業務分野の "Self-Service: Current Staffing Information" ドメイン "Performance Enablement"業務業務分野の "Self-Service: Role Requested Feedback" ドメインまたは "Self-Service: Self Requested Feedback" ドメイン 他のユーザーのフィードバックの表示 "Staffing"業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン "Performance Enablement "業務分野			

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	の "Worker Data: Anytime Feedback" ドメイン "Worker Profile and Skills" 業務分野の "Search: Find Worker" ドメイン、または "Staffing" 業務分野の "Worker Data: Active Employees" ドメイン "Staffing" 業務業務分野の "Reports: Manager" または "Reports: Matrix Manager or Worker Data: Current Staffing Information" ドメイン "Performance Enablement" 業務業務分野の "Worker Data: Role Requested Feedback" ドメインまたは "Worker Data: Self Requested Feedback" ドメイン "Staffing" 業務業務			

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	業務分野の "Worker Data: Business Title" または "Worker Data: Current Staffing Information" または "Worker Data: Management 管理" ドメイン			
view_org_goals	• "Organizations and Roles" 業務分野の "Reports: Organization" ドメイン • "Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン • "Performance Enablement" 業務分野の "Worker Data: Organization Goals" または "Self-Service: Organization Goals" ドメイン	表示		
view_performance_reviews	"Performance Enablement" 業務分野の "Worker Data: Employee Reviews" ドメイン または "Self-Service: Employee Reviews" ドメイン	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
create_goal_self	"Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示	目標の管理	Manage Goals (REST Service)
create_goal_self	"Performance Enablement"業務業務分野の"Self-Service: Employee Goals"または"Worker Data: Employee Goals"	変更	目標の管理	Manage Goals (REST Service)
view_talent_profile_details	自身のタレント詳細の表示 • "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン • "Worker Profile and Skills"業務分野の"Self-Service: Education"ドメイン • "Worker Profile and Skills"業務分野の"Self-Service: Skills"ドメイン • "Worker Profile and Skills"業務分野の"Self-Service: Job History"ドメイン 同僚のタレント詳細の表示 • "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン			

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Reports"</i> ドメイン "Worker Profile and Skills"業務分野の"<i>Self-Service: Education</i>"ドメイン "Worker Profile and Skills"業務分野の"<i>Self-Service: Skills</i>"ドメイン "Worker Profile and Skills"業務分野の"<i>Self-Service: Job History</i>"ドメイン			

ESS - ワークフォース マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
delete_time_off	"Staffing"業務分野の" <i>Worker Data: Public Worker Reports</i> "ドメイン	表示	休暇の訂正	休暇エントリの訂正 (REST サービス)
edit_time_off	"Staffing"業務分野の" <i>Worker Data: Public Worker Reports</i> "ドメイン	表示	休暇の訂正	休暇エントリの訂正 (REST サービス)
enter_time_block	"Time Tracking "業務分野の"<i>Process: Time Block REST APIs</i>"ドメイン "Time Tracking "業務分野の"<i>Process: Time Clock</i>	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Event REST APIs</i> "ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン			
enter_time_block	"Time Tracking " 業務分野の" <i>Process: Time Block REST APIs</i> "ドメイン	変更		
my_time_off_events	"Time Off and Leave " 業務分野の"<i>Self-Service: Time Off</i>"ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン	表示		
request_time_off	"Staffing"業務分野の" <i>Worker Data: Public Worker Reports</i> "ドメイン	表示	休暇の申請	休暇エントリの申請 (REST サービス)
shift_check_in	"Time Tracking " 業務分野の"<i>Process: Time Clock Event REST APIs</i>"ドメイン "Staffing"業務分野の"<i>Worker Data: Public Worker Reports</i>"ドメイン	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
shift_check_in	"Time Tracking " 業務分野 の "Process: Time Clock Event REST APIs" ドメイン	変更		
shift_check_out	"Time Tracking " 業務分野 の "Process: Time Clock Event REST APIs" ドメイン "Staffing" 業務分野 の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン	表示		
shift_check_out	"Time Tracking " 業務分野 の "Process: Time Clock Event REST APIs" ドメイン	変更		
submit_time	"Time Tracking " 業務分野 の "Process: Time Block REST APIs" ドメイン "Time Tracking " 業務分野 の "Process: Time Tracking Configuration Objects REST APIs" ドメイン "Staffing" 業務分野 の "Worker Data: Public Worker	表示	時間の入力	Submit Time (REST Service)

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Reports"ドメイン			
time_off_balance	"Time Tracking" 業務分野の"Self-Service: Time Off Balances"ドメイン "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示		
time_off_types	"休暇の申請 (自己用)"許可するアクション: "休暇の申請"ビジネスプロセスの開始権限 "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示	休暇の申請	Request Time Off (REST Service)
update_time_block_comments	"Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン	表示		
update_time_block_comments	"Time Tracking" 業務分野の"Process: Time Block REST APIs"ドメイン	変更		
view_holiday_calendar	"休暇・休職"業務分野の"Self-Service: Leave of Absence"ドメイン	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	"Time Off and Leave" 業務分野の "Self-Service: Time Off" ドメイン "Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン			
view_time_blocks	"Time Tracking " 業務分野の "Process: Time Block REST APIs" ドメイン "Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン	表示		
view_time_entry_codes	"Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン "Time Tracking " 業務分野の "Process: Time Block REST APIs" または "Process: Time Clock Event REST APIs" ドメイン	表示		
view_time_entry_projects	"Staffing" 業務分野	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン "Time Tracking" 業務分野の "Process: Time Block REST APIs" または "Process: Time Clock Event REST APIs" ドメイン			

MSS - ヒューマン キャピタル マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
recommend_change_jobs	Job Template Positions" 業務分野の "View: Change Job Templates GraphAPI Results" ドメイン	表示	職務の変更	職務の変更 (GraphQL)
view_direct_reports	"Staffing" 業務業務分野の "Reports: Manager" または "Reports: Matrix Manager or Worker Data: Current Staffing Information" ドメイン	表示		
view_direct_reports_info	"Staffing" 業務業務分野の "Reports: Manager" または "Reports: Matrix Manager or Worker Data: Current	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Staffing Information"</i> ドメイン "Talent Pipeline"業務分野の "Worker Data: Succession "ドメイン "Staffing"業務分野の "Worker Data: Anniversaries/ Birthday Reports"ドメイン "Staffing"業務分野の "Worker Data: Time in Position"ドメイン "Staffing"業務分野の "Public Profile Preferences: Birthday"ドメイン			
view_team_learning_status	"Staffing"業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン "Learning Core" 業務業務分野の " Reports: Learning Record"または "Person Data: Learning"	表示		
view_worker_history	"Staffing"業務分野の "Worker	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	<i>Data: Public Worker Reports</i> "ドメイン "Staffing"業務分野の<i>"Worker Data: Active Employees"</i>ドメインまたは<i>"Worker Profile and Skills"</i>業務分野の<i>"Search: Find Worker"</i>ドメイン "Staffing"業務分野の<i>"Worker Data: Historical Staffing Information"</i>			

MSS - タレント マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
start_performance_review	"Staffing"業務分野の <i>"Worker Data: Public Worker Reports"</i> ドメイン "Staffing"業務分野の<i>"Reports: Manager"</i>ドメインまたは<i>"Staffing"業務分野の"Reports: Matrix Manager"</i>ドメインまたは<i>"Core</i>	表示	パフォーマンス レビューの開始	startPerformanceReview (Graph API v1)

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Compensation"業務分野 の"Worker Data: Market Position Details"ドメインまたは "Staffing"業務分野 の"Worker Data: Current Staffing Information"ドメイン			
view_candidate_status	"Recruiting"業務分野の"Candidates for My Jobs"ドメイン "Recruiting"業務分野の"Internal Careers"ドメイン "Recruiting"業務分野の"Candidate Data: 個人情報"ドメイン、または "Recruiting"業務分野の"Candidate Data: Job Application"ドメイン、または "Recruiting"業務分野の"Candidate Data: Global Search"ドメイン、または "Talent Pipeline"業務分野	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	の "Prospects" ドメイン			
view_team_goals	"Staffing" 業務分野の "Worker Data: Public Worker Reports" ドメイン "Performance Enablement" 業務分野の "Worker Data: Employee Goals" ドメイン "Performance Enablement" 業務分野の "Reporting: Performance and Goals" ドメイン "Performance Enablement" 業務分野の "Worker Data: Organization Goals" ドメイン "Staffing" 業務業務分野の "Search: Find Worker" または "Reports: Manager" または "Reports: Matrix Manager" または "Worker Data: Current Staffing"	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	Information"ドメイン			
view_team_performance	• "Staffing"業務分野の"Worker Data: Public Worker Reports"ドメイン • "Performance Enablement"業務分野の"Worker Data: Employee Reviews"ドメイン	表示		

MSS - ワークフォース マネジメント

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
view_direct_reports	• "time_off"Staffing"業務分野の"Reports: Manager"ドメイン - または "Staffing"業務分野の"Reports: Matrix Manager"ドメイン - または "Staffing"業務分野の"Self-Service: My Team"ドメイン - または "Time Off"の"Worker Data: Time Off (Time Off Manager View)"ドメイン "Time Off and Leave " 業	表示		

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
	務分野、または "Time Off and Leave " 業務分野の "Worker Data: Time Off (Time Off Manager View)" ドメイン			

MSS - 給与計算

Tool	必須ドメイン	必要な権限	必須ビジネス プロセス	必須のビジネス プロセス開始アクション
request_payroll_input	"Staffing" 業務分野の "Reports: Manager" ドメイン "Core Payroll" 業務分野の "Manager Pay Component Visibility" ドメイン	表示	給与計算入力のリクエスト	給与計算入力のリクエスト (REST サービス)

Sana for Workday

概念: Sana ワークスペース

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- USMA の場合、この機能は自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。

- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントには uMSA が必須です。非本稼働テナントでは、自己構築エージェントのため uMSA は必須です。

この機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- 汎用サブスクリプション契約書 (UMSA) に署名する。
- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)に同意します。
- Sana エンタープライズ SKU を購入してください。これは Sana エンタープライズにのみ適用されます。

Sana コアと Sana エンタープライズは、Sana とWorkday全体で、HR と財務の AI ネイティブのエクスペリエンスを提供します。会話型でWorkdayとやり取りすることができます。

機能	Sana コア	Sana エンタープライズ
Sana ワークスペースへのアクセス (ファイルのアップロード(調査と分析) や LLM チャット (Web のみ) を含む)。	はい	はい
Workdayセルフサービス エージェント (WSAA) を介したWorkdayでの読み取りおよび書き込みアクション。	はい	はい
ユーザー履歴と引用があるエージェント型のチャット。	はい	はい
複数ステップからなる HCM および財務プロセスを調整する自動化されたワークフロー。	はい	はい
Workdayテナントと共有されるシングル サインオン。	はい	はい
ロールと権限のミラーリングにより、アクセスとアクションでWorkday のセキュリティ設定が反映される。	はい	はい
管理者は、Sana エンタープライズで使用されるサポートされているサードパーティ コネクタを有効にして管理できます。	いいえ	はい
適切な権限を持つユーザーは、Sana エンタープライズチャットから直接、コネクタでアクションをリクエストおよび実行できます。	いいえ	はい
続行する前に、ヒューマン ザループでの承認が必要なアクションをレビューして確認するようユーザーに促します。すべてのシステム間アクションが記録され、監査に使用されます。	いいえ	はい

Sana ワークスペース

以下の場合に、Workdayテナントから Sana ワークスペースにアクセスできます。

- **Workday** ホームページで **"Sana"** カードをクリックします。
- Workday の検索結果ページにある **"Sana の探索"** ボタンをクリックします。
- グローバル ナビゲーション バーで **"Sana"** をクリックします。

Note: ホームページで **Sana** カードと検索の **"Sana を探索"** ボタンを有効にするには、ホーム カード ワークスペース "" の **"作業ツール"** セクションで **Sana** カードを有効にする必要があります。

ステップ: Sana for Workday の設定

Prerequisites

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#) でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール" を選択します。
3. プロフィール ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 "" の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けの Workday AI](#) を参照してください。
- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントには uMSA が必須です。非本稼働テナントでは、自己構築エージェントのため uMSA は必須です。

この機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- 汎用サブスクリプション契約書 (UMSA) に署名する。
- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#) に同意します。
- Sana エンタープライズ SKU を購入してください。これは Sana エンタープライズにのみ適用されます。

セキュリティ: "System" 業務分野の以下のドメイン:

- Sana エージェント ユーザー プロビジョニング
- Sana Enterprise
- Security Activation
- Security Configuration

Context

Sana と関連する AI エージェントのセキュリティ設定が完了していることを確認するため、Workday は管理者に通知を送信します。以下のように通知されます。

- Workday セキュリティ管理者が **"AI 管理者のセキュリティ権限の設定"** タスクを完了する。
- Agent System of Record 管理者がセルフサービス エージェントを設定してアクティブ化する。
- Sana 管理者が、必要に応じて、**Sana** ワークスペースでデフォルト設定を変更。
- ユーザープロビジョニング管理者が、**Sana** に社員をプロビジョニングする。

Steps

1. AI 管理者セキュリティ権限を設定します。
2. エージェント システム オブ レコードを設定します。
3. ドメインのセキュリティ ポリシーを編集します。

"System"業務分野の"Sana Enterprise"ドメインを設定します。

Note: このステップは、組織が Sana エンタープライズ SKU を購入している場合に必須です。このドメイン設定、システム間接続と Sana エンタープライズ機能を利用できるユーザーが決まります。

4. (任意) "ユーザー プロビジョニングのセキュリティ グループの設定"タスクにアクセスします。特定のセキュリティ グループのみを Sanaプロビジョニングに使用できるようにする場合は、グリッドに行を追加し、"セキュリティ グループ"プロンプトで有効にするグループを選択します。

セキュリティ: "System" 業務分野および "User Provisioning" 業務分野の "Set Up: User Provisioning"ドメイン

5. Sana ワークスペースにユーザーをプロビジョニングします。

Sana ワークスペースにユーザーをプロビジョニングするよう、ユーザープロビジョニング管理者に通知します。

- a. Workdayで、ベルアイコン ()から"アクションが必要: Sana ワークスペースへのユーザーのプロビジョニング" 通知を開きます。
- b. 通知内のリンクをクリックして、ユーザー プロビジョニング ワークスペースを開きます。
- c. "製品"ページで、"Sana"タイル "設定" をクリックします。
- d. "ユーザーのプロビジョニング" セクションで、"プロビジョニング グループの編集" をクリックします。
- e. "Usage Workday Security Groups"プロンプトで、以下のいずれかを選択します。
 - すべて: Sana にすべてのユーザーをプロビジョニングします。
 - プロビジョニングする個別のセキュリティ グループ。個々のセキュリティ グループは、"ユーザー プロビジョニングのセキュリティタスクの設定"タスクでユーザープロビジョニング用に設定されている場合にのみ選択できます。
- f. "プロビジョニング グループの更新"をクリックします。
- g. "プレビュー" と "同期の有効化"をクリックします。
- h. プロビジョニングを行うユーザーをレビューし、確認チェックボックスをオンにして、"同期の有効化"をクリックします。

同期が有効になると、選択したセキュリティ グループのユーザーは自動的にプロビジョニングされ、Sana ワークスペースにサインインできるようになります。

6. Workdayから Sana ワークスペースにアクセスできるようにします。

ユーザーがWorkdayテナントから Sana ワークスペースに簡単に検索できるようにするには、ホームページのSanaカードを有効にします。

- a. "ホーム カード ワークスペース" で、"ホーム"をクリックします。
- b. "カード"をクリックします。
- c. "作業ツールの編集" をクリックします。
- d. "作業ツールの編集"ポップアップで、行をグリッドに追加します。
- e. "名称"フィールドに、「Sana」と入力します。
- f. "OK" をクリックします。

7. (任意) Sana ワークスペースを設定します。

- a. Sana ワークスペースから、ナビゲーション メニューのワークスペース名の横にある矢印をクリックします。
- b. "ワークスペースの設定"をクリックします。
- c. (任意) 任意の設定を行います。以下が可能です。
 - Web 検索を無効にします。
 - 会社間サポート チャットを無効にする。
 - 特定のサードパーティ コネクタを無効にする。(Sana エンタープライズのみ)。
 - エージェント アクションを承認済みの E メール ドメインに制限する。(Sana エンタープライズのみ)。

Result

ユーザーはWorkdayからすぐに Sana にアクセスし、Sana の機能を使用できます。

AI 管理者のセキュリティ権限の設定

Prerequisites

Note: この機能を有効にするには、組織のサブスクリプションサービス契約に基づいて、追加の手続きが必要になる場合があります。組織がメイン サービス契約 (MSA) またはユニバーサル メイン サービス契約 (UMSA) に含まれている場合。組織のサブスクリプションサービス契約を決定するには、以下の手順に従います。

1. [Workday Community](#)でプロフィール アバターを選択する。
2. "プロフィール"を選択します。
3. プロファイル ページで、組織名を選択します。これは自分の名前の下、職務名 ""の横にあります。
4. サブスクリプション サービス契約値を表示します。

この値によって、必要な手順が次のように異なります。

- UMSA を使用すると、機能が自動的に使用可能になります。機械学習データ提供の詳細については、[概念: 汎用サブスクリプション契約済のお客様向けのWorkday AI](#)を参照してください。
- MSA

フレックス クレジットは、本稼働テナントでエージェントを登録および使用する場合にのみ必須です。これらの契約にオプトインするまでは、本番環境でエージェントを登録して使用することはできません。Workday 構築エージェントの非本稼働テナントおよび本稼働テナントには uMSA が必須です。非本稼働テナントでは、自己構築エージェントのため uMSA は必須です。

Sana コアと Sana エンタープライズを利用するには、以下を行う必要があります。

- Sana エンタープライズ SKU を購入してください。これは Sana エンタープライズにのみ適用されます。
- 汎用サブスクリプション契約書 (UMSA) に署名する。
- [Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシー](#)に同意します。

セキュリティ: "System"業務分野の以下のドメインにおけるセキュリティ権限があります。

- Security Activation
- Security Configuration

Context

"Set Up: AI Admin Security Permissions" タスクでは、必要なすべてのセキュリティ設定ステップが 1 つのタスクにまとめられ、完了するとバックエンド処理が開始され、Workday AI 機能を使用するための組織設定が行われます。

このタスクは、テナントごとに 1 回のみ実行できます。このタスクにより、以下のセキュリティ アクセス権を簡単に付与できます。

- Agent System of Record: ユーザー アクセス権を割り当てて、AI エージェントの動作とインテグレーションを一元事業地に管理および設定できます。
- Sana のユーザー プロビジョニング ワークスペース: 管理者を Sana にユーザー プロビジョニングに割り当てます。
- プラットフォーム使用状況コンソール: エージェントが使用するインフラストラクチャ リソースを監視および管理するためのユーザー アクセス権を割り当てます。
- Sana: ユーザーを Sana 管理者として割り当て、Sana ワークスペースで Sana 機能を設定します。

すべてのテナント (Workday稼働、サンドボックス、サンドボックス プレビュー、実装、実装プレビュー) のセキュリティ管理者に、**"AI 管理者のセキュリティ権限の設定"**タスクにアクセスして完了するための通知が送信されます。

"AI 管理者のセキュリティ権限の設定" タスクの領域は個別に設定できますが、AI エクスペリエンスの重要な依存関係をすべて満たすために、このWorkdayを使用することをお勧めします。

セキュリティ管理者が、すべてのセクションを設定する必要があります。タスク "" は、送信後に編集できません。Workday の標準セキュリティ設定から、設定を手動で更新できます。

Note: 複数の管理者がこのタスクを設定している場合は、Workdayされた最初の設定が処理されます。

Steps

1. Workdayのベルアイコンから**"アクションが必要: Sana およびWorkdayエージェントのセキュリティのレビューと設定"**通知にアクセスします。
2. 通知で、**"設定の開始"**をクリックします。
3. 次を参考にして、**"設定"**タブの**"Configure Security Policies"**セクションを完了させます。

設定する必要があるのは、ステータスが **"未完了"** のグリッドのみです。以下が表示されます。

- 完了 ステータス:ドメインセキュリティ ポリシーが設定されている場合。グリッド "" で、**"セキュリティ グループ"**列および**"セキュリティ グループへのユーザーの表示"** 列が非表示になっ表示しない。
- 完了: **"例外"** ステータスで、**"ドメイン セキュリティ ポリシー"**列のドメインセキュリティ ポリシーの少なくとも 1 つが現在アクティブではない、または処理待ちの変更がある場合。

"View or Add Users to Security Group"列で、以下を行います。

- メンバーを追加できるのは、新しいセキュリティ グループを作成する場合、または他のポリシーで使用されておらず、メンバーがいないグループを選択している場合のみです。
- 他のポリシーで現在使用されているセキュリティ グループを選択する場合、または既存のメンバーが存在する場合、列のメンバーを追加したり削除したりすることはできません。

"詳細"列で、**"詳細"**をクリックすることによって、各ドメインセキュリティ ポリシー設定にドリルダウンできます。リンク () をクリックすると、**"ドメイン詳細の表示"** ポップアップ ボックスが表示され、設定を確認できます。

Option	Description
Agent System of Record	このセクションでは、"Agent System of Record" ワークスペースへのアクセス権を設定できます。 "ドメイン セキュリティ ポリシー" 列には、設定が必要なすべてのドメインセキュリティ ポリシーが表示されます。 "セキュリティ グループ"列で、既存のユーザー ベースのセキュリティ グループを選択するか、新しいグループを作成します。

Option	Description
	メンバーは"セキュリティ グループへのユーザーの表示" 列または "Add Users to Security Group"列に表示されます。"ドメイン セキュリティ ポリシー" 列にリストされているドメインセキュリティ ポリシーに、指定したグループのユーザーが"表示"および"変更" の権限とともに追加されWorkday。
プラットフォーム使用状況コンソール	このセクションでは、プラットフォーム使用状況コンソールへのアクセス権を設定できます。 "ドメイン セキュリティ ポリシー" 列には、設定が必要なすべてのドメインセキュリティ ポリシーが表示されます。 "セキュリティ グループ"列で、既存のユーザー ベースのセキュリティ グループを選択するか、新しいグループを作成します。 必須のセキュリティ グループは、"<i>Management Dashboard: Platform Consolidation Calendar</i>"ドメインセキュリティ ポリシーで、"表示専用"権限を持つセキュリティ グループのみです。 このタスクを使用して "<i>Management Dashboard: Platform Consolidation</i>sole " ドメインにセキュリティ グループを追加できるのは、ドメインセキュリティセキュリティ ポリシーで設定されている、"表示のみ"または"表示および変更" の権限を持つ既存のセキュリティ グループが存在しない場合のみです。 Note: これらのセキュリティ設定条件が満たされた場合、"プラットフォーム使用状況コンソール"グリッドに "完了" Workdayが表示されます。 メンバーは"セキュリティ グループへのユーザーの表示" 列または "Add Users to Security Group"列に表示されます。"ドメイン セキュリティ ポリシー" 列にリストされているドメインセキュリティポリシーに、表示専用の権限を持つユーザーが追加Workdayれます。
ユーザー プロビジョニング ワークスペース	このセクションでは、Sana のユーザー プロビジョニング ワークスペースへのアクセス権を設定できます。 "ドメイン セキュリティ ポリシー" 列には、設定が必要なすべてのドメインセキュリティ ポリシーが表示されます。 "セキュリティ グループ"列で、既存のユーザー ベースのセキュリティ グループを選択するか、新しいグループを作成します。

Option	Description
	メンバーは"セキュリティ グループへのユーザーの表示" 列または " Add Users to Security Group "列に表示されます。"ドメイン セキュリティ ポリシー" 列にリストされているドメインセキュリティ ポリシーに、指定したグループのユーザーが"表示"および"変更" の権限とともに追加されWorkday。

ドメインが無効になっている場合、"AI 管理者のセキュリティ権限の設定" タスクにアクセスすると、以下のようになります。

- ドメイン ""にセキュリティ グループを追加できます。タスク ""で変更を送信すると、ドメイン "" がアクティブ化されます。
- ドメインに既存のセキュリティ グループがある場合、"完了" ステータスが表示されます。

4. 次を参考にして、"設定"タブの"**Sana 管理者の設定**" セクションを完了させます。

Option	Description
Sana 管理者の設定	このセクションでは、どのユーザーが Sana 管理者であるかを定義できます。Workday は、アクティブ化時に、これらのユーザーを Sana に自動的にプロビジョニングします。 "セキュリティ グループ"列で、既存のユーザー ベースのセキュリティ グループを選択するか、新しいグループを作成します。 Sana 管理者権限を持つユーザーは、Sana ワークスペースにアクセスして設定できます。

5. "**Activate Pending Security Policy Changes**" タブを選択します。

テナントでセキュリティ ポリシーの変更をアクティブ化するには、"*Security Activation*" ドメインの権限が必要です。

6. 次を参考にして、"処理待ちのセキュリティ ポリシー変更のアクティブ化"タブを完了させます。

Option	Description
セキュリティ ポリシー グリッド	グリッドでセキュリティの変更をレビューします。
確認チェックボックス	このチェックボックスをオンにすると、セキュリティ ポリシーのすべての変更が送信されます。 "設定" タブのセキュリティ設定を含むWorkday内のセキュリティ ポリシーの変更がすべてアクティブ化されます。

7. "**OK**" をクリックし、"**完了**" をクリックします。

Result

Workday待ちのセキュリティ ポリシーの変更が自動的にアクティブ化され、該当するタスクが使用可能になります。含まれているセキュリティ グループのメンバーが実行できる追加のタスクとアクションについて、Workday が通知する場合。

セキュリティ グループのメンバーへの Sana 管理者アクセスの割当に失敗した場合、"設定"タブの"**Sana** 管理の設定"セクションに "再送信" ボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、プロビジョニングを再試行できます。Workday は、ユーザーに Sana 管理者権限を割り当てようとしています。

Next Steps

(任意) このタスクの設定を更新する必要がある場合は、Workday の標準セキュリティ設定にアクセスして手動で変更してください。

プラットフォーム使用状況コンソール

プラットフォーム使用状況コンソールのセキュリティの設定

Context

Note: このセクションで説明するソリューションは、Workday サービスには含まれません。詳細については、[法的通知](#) を参照してください。

ユニバーサル メイン サブスクリプション契約 (UMSA) および Workday フレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシーをサブスクライブしている場合、"プラットフォーム使用状況ダッシュボード"を使用して、Workday オファ어의使用状況に基づく会社のフレックス クレジットの使用状況を視覚化できます。

Steps

1. "System"業務分野の "*Management Dashboard: Platform Consumption Outline* " ドメインにアクセスします。
2. ドメインの関連アクション メニューから、"**Create Security Policy**"を選択します。
3. "確認" チェックボックスをオンにし、"**OK**" をクリックします。
4. "レポート/タスクの権限"グリッドで、組織 ()に関連するセキュリティ グループを追加します。
5. "表示" チェックボックスをオンにして、"**OK**"をクリックします。
6. [処理待ちのセキュリティ ポリシーの変更をアクティブ化](#)します。

Result

選択したセキュリティ グループは、"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードにアクセスできるようになりました。

概念: プラットフォーム使用状況コンソール

"プラットフォーム使用状況ダッシュボード"を使用すると、Workday フレックス クレジット レート カードに含まれる Workday コース オファ어의使用状況に基づいて、会社のフレックス クレジットの使用状況を視覚化できます。"プラットフォーム使用状況ダッシュボード"では、使用状況とフレックス クレジット残高を監視できます。

Note: Workday AI エージェントには、Workday フレックス クレジットを使用する必要があります。詳細については、[Community の記事 \(\)](#)を参照してください。

フレックス クレジットと"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードは、ユニバーサル メイン サブスクリプション契約 (UMSA) と Workday フレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシーを利用する場合にのみ使用できます。UMSA をサブスクライブしているものの、Workday のフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシーに正負ありいない場合、プラットフォーム使用状況

コンソールダッシュボードのセキュリティを設定できますが、ポリシーが正負ありまで使用状況データは表示されません。

クレジット残高と権利

"クレジット残高" ページには、日次のフレックス クレジット アクティビティが表示されます。"クレジット利用権" ページに、フレックス クレジット パッケージの購入履歴が表示されます。

ステータス	定義
進行中	使用可能なクレジット。
期限切れ	失効したクレジット。
非アクティブ	将来使用できるようになる購入済みクレジット。

すべてのフレックス クレジットは資金配分可能であり、ユーザーに資格のあるレート カードに記載されているWorkdayサービス全体に適用できます。

レート カード

"レート カード" ページは、クレジットの使用量という単位で、権利の金額を定義する定義的なリソースです。

列	定義
(単位) ごとのブロック	請求可能なブロックに含まれる単位数。
ブロックあたりのクレジット レート	その単位ブロックでの請求レート。

使用状況の把握と追跡

使用状況は、前日の使用量を反映してWorkday更新されます。使用状況は、レート カードページで定義されている特定の機能および契約に関連付けられたポリシー バージョンに基づいて決まります。Workday、いくつかのコンポーネントを使用して使用量が決定されます。

コンポーネント	定義
エージェント	エージェントのスキルとアクティビティの使用。
APIリクエスト	APIリクエストの数。
ドキュメント ストレージ	保存されているデータのギガバイト (GB)。
インテグレーション イベント	処理されたインテグレーションイベントの数。

ポリシーに、基準となる使用手当または組み込みの権利が提供されます。この組み込み利用権が使用されると、利用可能なクレジット利用権に対して請求がWorkdayれ、最初に期限切れとなるクレジットが優先されます。

この閾値に対する使用状況は、"概要" ページの "Embedded Entitlement Overview" Vizで追跡できます。より詳細なメトリックについては、"使用状況" ページを使用してドリルダウン、サービス別の使用状況の内訳を確認できます。

現在のフレックス クレジットの顧客については 2026 年 2 月 13 日から、新規の顧客については契約の有効日以降の使用量がWorkdayされます。

Note: 組織が、プラットフォームのコンポーネントや利用権を含まないバージョンのWorkdayフレックス クレジットとプラットフォーム利用資格ポリシーに正負ありいる場合、これらの利用権や使用状況は"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードには表示されません。

クレジット利用権通知

アクティブなクレジット利用権を使い切るとWorkdayが送信されます。クレジット利用権の使用状況が 80%、90%、100% に達すると、"*Management Dashboard: Platform Consolidation Calendar*" ドメインにアクセス権のあるドメインに通知が送信され、"**Plant Consolidation Calendar**"ダッシュボードにバナーが表示されます。通知配信の設定については、[概念: 通知](#)を参照してください。

クレジット利用権を超過した場合、"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードでWorkdayの内定が非アクティブになることはありません。エージェントを非アクティブ化するには、[Workday 構築のエージェントの登録と設定](#)を参照してください。

非本稼働テナント

"プラットフォーム使用状況ダッシュボードが本稼働テナントおよび非本稼働テナントで有効になっています。非本稼働テナントでの使用は、Workdayフレックス クレジット残高に影響しません。非本番テナントでは使用状況が追跡され、情報用のWorkdayフレックス クレジット残高が表示されますが、Workdayテナントの使用状況は組織のフレックス クレジット残高に対してのみ適用されます。

"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードでは、すべての非本稼働テナントにわたる日次集計データを受け取ります。例: サンドボックス テナントで"プラットフォーム使用状況コンソール" ダッシュボードを使用すると、ダッシュボードにはすべての非本番環境からの統合アクティビティが表示されます。

Related Information

Examples

[Workday Community: Workday Flex Credits](#)

AI データ提供

ステップ: AI 機能データ提供の通知の設定

Context

汎用主要サブスクリプション契約 (UMSA) のお客様は、これらの通知を受信するように "AI 機能" および "サードパーティ通知" ドメインを設定できます。

通知タイプ	納品時間	目的
使用可能な AI 機能	機能リリースの日付。	AI 機能が本稼働テナントで使用可能であることを確認し、データ抽出が開始される前に、データ提供を管理する 14 日間の期間を開始します。
説明または技術更新	変更によってトリガされた毎週。	機能説明の更新と、AI 機能で使用するデータ フィールドの変更が報告されます。
未完了の AI 機能	リリースまで 30 日。	購入した SKU に適用可能な今後の AI 機能の通知を提供します。

Note: 会社のサブスクリプション契約タイプを決定するには、次のようにします。

1. [Community のプロフィール](#)にアクセスしてください。
2. 自分の名前の下にある会社の名前をクリックします。

"サブスクリプション サービス契約"フィールドで、次のようにします。

- **"MSA"** は、"Maintain Service Agreement (MSA)" タイプを示します。
- **UMSA** は、汎用サブスクリプション契約 (UMSA) タイプを表します。

Steps

1. **ドメイン セキュリティ ポリシーを編集します。**

関連するセキュリティ グループを "Innovation Services" 業務分野の "AI Features and Third Party Notification" ドメインに追加します。

2. **処理待ちのセキュリティ ポリシーの変更をアクティブ化します。**

3. **"テナント設定の編集 - 通知" タスクにアクセスします。**

"通知配信設定"セクションの"システム"タブで、"親通知タイプ"のルーティング ルールに E メール通知が含まれていることを確認します。

属していない場合は、"昇順の通知"行から"親通知タイプ"設定の上書き"チェックボックスをオンにし、E メール通知を含むルーティング ルールを選択します。[通知ルーティング ルールの作成を参照](#)してください。

セキュリティ: "System" 業務分野の "Set Up: Tenant Setup - BP and Notifications" ドメイン

Result

セキュリティ グループ メンバーは、AI 機能の今後の変更に関する通知を受け取ります。

MSA カスタマー向けの Innovation Services 機能および AI データの提供を有効化

Context

Innovation Services は、Workday のコア製品を超えた機能を提供します。組織のサブスクリプション サービス契約がメイン サービス契約 (MSA) の場合、これらの機能にアクセスするには "Innovation Services" を介してのみ可能です。Innovation Services にアクセスするには、Innovation Services Addendum (ISA) に署名する必要があります。その後、以下のステップを使用して Innovation Services 機能を有効化できます。

Innovation Services の一部の機能では、機能の一部として人工知能 (AI) が使用されます。これらの機能について、データ提供も有効にする必要があります。Workday では、この機能を使用して機能内での AI 結果を改善します。

カスタマー サクセス マネージャに連絡するか、指定サポート連絡先に連絡先に依頼して、[Workday Community](#)を介してカスタマー サクセス リクエストを作成し、Innovation Services をサブスクライブするための発注書を取得して署名してもらいます。

Steps

1. "Innovation Services" 業務分野を有効にする。

ステップ: [業務分野およびセキュリティ ポリシーの有効化](#)を参照してください。

2. **ドメイン セキュリティ ポリシーを編集します。**

"Innovation Services" 業務分野の "Manage: Innovation Services" ドメインを設定します。

3. **"Innovation Services and Data Selection Opt-In" レポートにアクセスします。**

4. **"Innovation Services Opt-In"タスクで、有効にする機能のチェックボックスを"Available Services"タブから選択します。**

5. (任意) "Maintain Innovation Services Data Selection Opt-In"タスクで、AI 用に提供するデータのチェックボックスをオンにします。
- 機能で必要とされるデータの提供を確認するには、[参考: 機械学習のデータの提供](#)を参照してください。

Next Steps

データの提供を必要とする AI 機能は、サンドボックス テナントでは正確に機能しません。実稼働テナントに展開する前に AI 機能をテストするには、"サンドボックス プレビュー" または "実装" テナントを使用します。

これらのタスクを使用して、実装テナントで設定をテストできます。

タスク	説明
実装テナントに対する週次データ提供アクティブ化の管理	将来の週単位のデータの抽出を管理します。
オンデマンド データ提供アクティブ化の実行 - 実装テナント	データが抽出され、将来の週次抽出にテナントがサブスクライブされます。

正確なテストを行うために、これらのタスクを実行する前に、"サンドボックス プレビュー" または "実装" テナントをリフレッシュすることをお勧めします。AI 機能には特定の量のデータが必要とされるため、候補が表示されるまでに最大 2 週間かかる場合があります。

Related Information

Examples

[Workday Community: Workday AI Gateway](#)

[Workday Community: Workday Innovation Services](#)

[Workday Community: Workday Innovation Services - よくある質問](#)

汎用メイン サブスクリプション契約のお客様に対する Workday AI データの提供の管理

Prerequisites

- 組織が汎用メイン サブスクリプション契約に含まれている必要があります。

Note: 会社のサブスクリプション契約タイプを決定するには、次のようにします。

- [Community のプロフィール](#)にアクセスしてください。
- 自分の名前の下にある会社の名前をクリックします。

"サブスクリプション サービス契約"フィールドで、次のようにします。

- "MSA" は、"Maintain Service Agreement (MSA)" タイプを示します。
- UMSA は、汎用サブスクリプション契約 (UMSA) タイプを表します。
- セキュリティ: "Innovation Services" 業務分野の以下のドメイン。
 - Manage: Data for ML Features
 - 表示: 機械学習機能のデータ

Context

UMSA に移行する場合、AI 機能のデータ提供を自動的に有効にします。

AI 機能のデータ提供は、製品ラインごとまたは AI 機能ごとに管理できます。

機能レベルのコントリビューションの詳細については、[参考: 機械学習データのコントリビューション](#)を参照してください。

Steps

1. **"Data Contribution for Workday AI"**レポートにアクセスします。
2. 以下のタスクを完了させます。

フィールド	説明
データ提供の許可	このチェックボックスをオンにすると、以下のようになります。 • 関連付けられた製品ラインまたは AI 機能のデータ提供を無効にする。 • 過去のデータ提供が 30 日以内に削除される。
データ詳細	"View Data Collected" をクリックして、Workday に提供されたデータのタイプの定義を表示します。
今後の拋出変更の表示	"Contribution Changes" をクリックして、機能の必須データ コントリビューションに対する今後の変更を表示します。
エンド ユーザーの場所によってデータ収集から除外された国	AI 機能レベルで、データ提供から除外する国を選択します。

3. **"OK"**をクリックします。

Result

データ提供を無効にすると、新しいデータの収集が停止され、過去の提供が 30 日以内に削除されます。

Note:

データ提供を無効にすると、特定の AI 機能のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。データ提供を無効化する影響は、低下する機能から、まったく機能しない機能まで、機能によって異なります。

コントリビューションを無効化することが機能にどのような影響を与えるかを理解するには、その機能の [Workday AI Factor Sheet](#) を参照してください。

Related Information

Concepts

概念: [汎用メイン サブスクリプション契約の顧客に対する Workday AI](#)

概念: 汎用メイン サブスクリプション契約の顧客に対する Workday AI

Note: 会社のサブスクリプション契約タイプを決定するには、次のようにします。

1. [Community のプロフィール](#)にアクセスしてください。
2. 自分の名前の下にある会社の名前をクリックします。

"サブスクリプション サービス契約"フィールドで、次のようにします。

- **"MSA"** は、"Maintain Service Agreement (MSA)" タイプを示します。
- **UMSA** は、汎用サブスクリプション契約 (UMSA) タイプを表します。

Workday は多くの場合、人工知能 (AI) 機能を提供する際に、データの提供に依存しています。UMSA の対象となる顧客の場合、購入した SKU の AI 機能に対するデータ提供が自動的に有効になります。関連する AI 機能の学習や強化に、このデータが使用される場合があります。

Note: Workday では、以下のステージで UMSA のお客様に対して AI 機能がアクティブ化されます。

- 週次メンテナンスなど、次回のサービス更新で AI 機能が有効化されます。
- データ提供は、24 時間以内に **"Data Contributions for Workday AI"** タスクに自動入力されます。
- 14 日以内に AI の候補がテナントに表示されます。

データ提供

UMSA のお客様は、**"Data Contribution for Workday AI"** タスクを使用してデータ提供を管理できます。セキュリティ権限は、"Innovation Services" 業務分野の *"Manage: Data for ML Features"* ドメインと *"View: Data for ML Features"* ドメインに設定されています。表示 [汎用メイン サブスクリプション契約のお客様に対する Workday AI データの提供の管理](#)。

データ提供は、データを使用する AI 機能ごとにグループ化されるため、各機能に必要な特定のデータのみを共有できます。各機能の持分は個別に、または製品ラインレベルで管理できます。

各 AI 機能に必要なデータ カテゴリを確認するには、[参考: 機械学習データの提供](#)を参照してください。

AI 機能または製品ラインでデータ提供を無効にすると、データは提供されなくなり、過去のデータ提供は 30 日以内に削除されます。

Note:

データ提供を無効にすると、特定の AI 機能のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。データ提供を無効化する影響は、低下する機能から、まったく機能しない機能まで、機能によって異なります。

コントリビューションを無効化することが機能にどのような影響を与えるかを理解するには、その機能の [Workday AI Factor Sheet](#) を参照してください。

以下のレポートも、拠出分詳細を確認するのに役立ちます。

- **"AI 機能データ詳細"** レポート (セキュリティ権限は *"View: Data for ML Features"* ドメイン) には、Workday 全体で利用可能なすべての AI 機能に関連付けられたデータ提供が、製品ライン別にフィルタリングされて表示されます。
- **"インテリジェント機能レポート"** レポート (セキュリティ権限は *"Manage: Data for ML Features"* ドメインと *"View: Data for ML Features"* ドメイン) には、すべての SKU の AI 機能と、購入した SKU の AI 機能が表示されます。

AI 機能通知

AI 機能の今後の変更に関する通知を有効化するには、"Innovation Services" 業務分野で *"AI Features"* および *"Third Party Notification"* ドメインを設定します。表示 [ステップ: AI 機能データ提供の通知の設定](#)。

"AI Features" および *"Third Party Notification"* ドメインにアクセスできるセキュリティ グループのメンバーが、これらの通知を受け取ります。

通知タイプ	納品時間	目的
使用可能な AI 機能	機能リリースの日付。	AI 機能が本稼働テナントで使用可能であることを確認し、データ抽出が開始される前に、データ提供を管理する 14 日間の期間を開始します。
説明または技術更新	変更によってトリガされた毎週。	機能説明の更新と、AI 機能で使われるデータ フィールドの変更が報告されます。
未完了の AI 機能	リリースまで 30 日。	購入した SKU に適用可能な今後の AI 機能の通知を提供します。

Workday のリリースから 14 日後まで、新しい AI 機能のデータは抽出されません。AI 機能リリースの日にデータ提供を無効化できます。

AI 機能のテスト

データの提供を必要とする AI 機能は、サンドボックス テナントでは正確に機能しません。実稼働テナントに展開する前に AI 機能をテストするには、"サンドボックス プレビュー" または "実装" テナントを使用します。

これらのタスクを使用して、"サンドボックス プレビュー" または "実装" テナントで設定をテストできます。

タスク	説明
実装テナントに対する週次データ提供アクティブ化の管理	将来の週単位のデータの抽出を管理します。"実装テナントに対してアクティブ化"を選択して実装テナントで機能を有効化すると、月曜日にレポートが自動的に実行され、データがリフレッシュされます。
オンデマンド データ提供アクティブ化の実行 - 実装テナント	データが抽出され、将来の週次抽出にテナントがサブスクライブされます。

正確なテストを行うために、これらのタスクを実行する前に、"サンドボックス プレビュー" または "実装" テナントをリフレッシュすることをお勧めします。AI 機能には特定の量のデータが必要とされるため、候補が表示されるまでに最大 2 週間かかる場合があります。

Related Information

Examples

[Workday Community: 機能導入の効率化とWorkday AI ホームページ](#)

[Workday Community: Workday AI Gateway](#)

参考: Workday AI データの提供

これらの機能では、組織のサブスクリプション サービス契約に基づき、人工知能 (AI) と機械学習 (ML) のメリットを最大化するために、テナント データを提供する必要があります。

- [クロス アプリケーション サービス: インテリジェント コアの通常の機能](#)
- [Financials: Financial Management Machine Learning GA Features](#)
- [財務会計: 経費の受領書のスキャン](#)
- [HCM: HCM Machine Learning GA 機能](#)
- [HCM: Workforce Management Machine Learning Services](#)
- [給与計算: 給与計算機械学習 GA 機能](#)
- [ピープル エクスペリエンス: ユーザー エクスペリエンス機械学習](#)
- [支出管理: 支出管理の機械学習 GA 機能](#)

クロス アプリケーション サービス: インテリジェント コアの通常の機能

機械学習機能	オプトイン データ カテゴリ	考慮事項
職務の変更のための機械学習の推奨事項	カスタム組織データ 監督組織データ 人材配置イベント データ 従業員プロフィール データ	"監督組織データ"および"カスタム組織データ"カテゴリでは、国の除外を使用できません。

Financials: Financial Management Machine Learning GA Features

データ カテゴリ	考慮事項
顧客支払データ	Intelligent Customer Payment Matching を有効にするには、過去 30 日間の顧客支払取引データが必要です。 この機能で有用な候補が提示されるのは、顧客支払を Workday で処理している場合に限られます。
経費データ	Expense Protect 機能を使用するには、テナントに少なくとも 10,000 の経費レポート行が必要です。 ユーザーが経費を送信すると、Expense Protect によって自動的に評価が行われ、リスク レベル、候補、インサイトが提供されます。
仕訳行データ	仕訳インサイト機能を使用するには、少なくとも 12 か月分の既存の履歴データが必要です。
サプライヤ請求書データ	サプライヤ請求書行の以下のワークタグで最も一般的に使用される上位 5 つの選択肢について、ML 候補を有効にすることができます。 • コスト センター • 勤務地 • 地方 • 支出カテゴリ Note: Innovation Services にオプトインした後、"テナント設定の編集 - 財務会計" タスクの"サプライヤ アカウント オプション"セクションで、サプライヤ請求書ドキュメントにおけるワークタグの候補の表示を有効にする必要があります。
売掛金データ	顧客過払の理由とワークタグの推奨を有効にするには、顧客過払の履歴が 3,000 以上必要です。 顧客請求書行の候補を有効にするには、収益カテゴリと販売アイテム フィールドが設定された顧客請求書が少なくとも 3,000 件必要です。

財務会計: 経費の受領書のスキャン

データ カテゴリ	考慮事項
経費の受領書のスキャン	ファイル形式が PDF、JPG、TIFF、PNG の受領書のスキャンできます。

HCM: HCM ML 機能およびサードパーティ コネクタ - GA

これらの機能で ML を有効にするには、**"HCM ML Features"** および **"Third Partner Connectors GA"** サービスを有効にして、各機能のデータ提供を有効にする必要があります。

機械学習機能	機械学習の機能のカテゴリ	オプトイン データ カテゴリ	考慮事項
Worker Profile and Skills 用の機械学習	• Skills Cloud • スキル候補とスキルの確認	• 職務補充依頼データ • タレント プロファイル データ • 従業員プロフィール データ	• Skills Cloud を有効にして従業員のスキル データを管理することをお勧めします。 • "Talent Profile Data" および "Job Requisition Data" のカテゴリでは、国の除外を使用できません。 • 必須ではありませんが、"Skills Cloud" カテゴリおよび "Skills Suggestions and Verification" カテゴリのデータをオプトインすることをお勧めします。
リクルーティング用の機械学習	• 社外候補者におすすめの職務 • 社外候補者のスキル候補 • 職務補充依頼のスキル候補	職務補充依頼データ	"Job Requisition Data" のカテゴリでは、国の除外を使用できません。
Learning Core 用の機械学習	• ラーニング スキルのタグ付け • おすすめの機械学習が見つかります • 関連コンテンツのおすすめ • 開発対象スキルベース	ラーニング データ	• "テナント設定の編集 - HCM" タスクを使用して、"関連コンテンツのおすすめ" ワークレットを設定します。 • "受講者エクスペリエンスの管理" タスクを使用して、"開発対象スキルベース" ワークレットと"機械学習に推奨" ワークレットを設定します。 • "開発対象スキルベース" ワークレットを使用するには、"ラーニング データ" カ

機械学習機能	機械学習の機能のカテゴリ	オプトイン データ カテゴリ	考慮事項
			カテゴリにオプトインする必要があります。オプトインしない場合、ML 以外の推奨事項が表示されます。 • "関連コンテンツのおすすめ" ワークレットを使用するには、"ラーニング データ" カテゴリにオプトインする必要があります。 • "機械学習の推奨コンテンツ" ワークレットを使用するには、"Learning Data" カテゴリと "Worker Profile Data" カテゴリをオプトインする必要があります。 • 機械学習データは、月曜から金曜まで 24 時間ごとに更新されます。
Talent Marketplace 用の機械学習	タレント マーケットプレイス	• 人口統計データ • 職務補充依頼データ • ラーニング データ • プロジェクト データ • スキル データ • タレントのオポチュニティ マーケットプレイス データ • 従業員プロフィール データ	• "Job Requisition Data" および "Talent Opportunity Marketplace Data" のカテゴリでは、国の除外を使用できません。 • "Talent Opportunity Marketplace Data" と "Worker Profile Data" がが必要です。これらのデータ カテゴリに依存する機能の詳細については、ステップ: Talent Marketplace の

機械学習機能	機械学習の機能のカテゴリ	オプトイン データ カテゴリ	考慮事項
			設定を参照してください。
キャリア ハブ用の機械学習	キャリア ハブ	- 職務補充依頼 データ - ラーニング データ - タレントのオポチュニティ マーケットプレイス データ - タレント プロファイル データ - 従業員プロフィール データ - スキル データ	- この機能を使用するには、特定の要件を満たしたキャリア ハブのユーザーである必要があります。キャリア ハブに関する情報については、カスタマー サクセス マネージャにお問い合わせください。 "Job Requisition Data"、"Talent Opportunity Marketplace Data"、"Talent Profile Data" のカテゴリでは、国の除外を使用できません。 - タレント プロファイル データと従業員プロフィール データが必要です。これらのデータ カテゴリに依存する機能の詳細については、ステップ: キャリア ハブの設定を参照してください。
マネージャのインサイト ハブ用の機械学習	マネージャ インサイト ハブ	- ラーニング データ - タレントのオポチュニティ マーケットプレイス データ - 従業員プロフィール データ	"Talent Opportunity Marketplace Data" カテゴリでは、国の除外を使用できません。 "マネージャのインサイト ハブ" の "おすすめ オポチュニティ" セクションでは、機械学習を使用してパーソナライズさ

機械学習機能	機械学習の機能のカテゴリ	オプトイン データ カテゴリ	考慮事項
			れた候補を提示します。この機能にアクセスするには、"HCM Machine Learning GA Features" サービスと関連データ カテゴリにオプトインし、Skills Cloud と "興味" を有効にする必要があります。

Note: Workday Graph イノベーション サービスを介して Skills Cloud を有効にした場合、選択したデータ と Skills Cloud 設定は有効のままになります。

"Innovation Service Data Details" レポートにアクセスして、"HCM ML Features" および "Third Party Connector GA" サービスに関連付けられているフィールドにドリルダウンできます。

HCM: Workforce Management Machine Learning Services

データ カテゴリ	考慮事項
時間設定データ	- Workday 時間異常値機能を使用するには、このカテゴリからデータを提供する必要があります。 - Workday では、すべての時間エントリ テンプレート、勤務スケジュール カレンダー、時間計算データを用いて、機械学習モデルの学習に使用されるデータを毎週更新します。
従業員データ	- Workday 時間異常値機能を使用するには、このカテゴリからデータを提供する必要があります。 - Workday では、時間を入力した従業員に関する限定的な従業員組織と職務データを使用して、機械学習モデルの学習に使用されるデータを毎週更新します。
過去のスケジュール ブロック データ	- Workday 時間異常値機能を使用するには、このカテゴリからデータを提供する必要があります。 - Workday では、従業員の過去のスケジュール ブロックを使用して、機械学習モデルの学習に使用されるデータを毎週更新します。
従業員の勤務時間と休暇・休職データ	- Workday 時間異常値機能を使用するには、このカテゴリからデータを提供する必要があります。 - Workday では、すべての従業員の時間ブロック、時間ブロック履歴、休暇エントリ、および時間レビュー イベントのデータ

データ カテゴリ	考慮事項
	を用いて、機械学習モデルの学習に使用されるデータを毎週更新します。
ユーザー機能提供データ	• "User Feature Delivery Data" カテゴリからテナントのデータを提供して、Workday による時間異常値の検出を支援できます。 • このカテゴリのどのデータを提供しているかを確認するには、Workforce Management Machine Learning Services の "Innovation Service Data Details" レポートを実行します。 • このカテゴリでは、国の除外を使用できません。

給与計算: 給与計算機械学習 GA 機能

"Innovation Services Valid for Maintain Data Opt-In" フィールドで、**"Payroll: Payroll Machine Learning GA Features"**を選択します。以下のカテゴリについて、"オプトイン"チェックボックスをオンにします。

データ カテゴリ	考慮事項
異常な給与計算結果	Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります
給与計算データ	• Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります。 • この機能にオプトインする前に、テナントに少なくとも 6 つ以上の支給期間の履歴データを用意しておくことをお勧めします。これにより、機械学習モデルに十分な学習データを確保できます。
給与計算データ (履歴)	• Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります。 • この機能にオプトインする前に、テナントに少なくとも 6 つ以上の支給期間の履歴データを用意しておくことをお勧めします。これにより、機械学習モデルに十分な学習データを確保できます。
給与の異常値の検証	Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります。
過去の給与計算結果 (履歴)	• Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります。 • この機能にオプトインする前に、テナントに少なくとも 6 つ以上の支給期間の履歴データを用意しておくことをお勧めします。これにより、機械学習モデルに十分な学習データを確保できます。

データ カテゴリ	考慮事項
従業員データ	Workday Pay Anomalies 機能を使用するには、このカテゴリのデータを提供する必要があります。
P45 税フォーム スキャン	"Workday P45 Tax Form Scanning" 機能を使用するには、このカテゴリを選択する必要があります。

Note: 異常値の取得機能を有効にしてテナント モデルを作成するには、以下のカテゴリにオプトインする必要があります。

- 異常な給与計算結果
- 給与計算データ
- 給与計算データ (履歴)
- 給与の異常値の検証
- 過去の給与計算結果 (履歴)
- 従業員データ

これらのデータ カテゴリを選択しないと、機械学習モデルを設計どおりに構築および配置できません。これらのモデルがないと、異常値と支払の機能は完全には機能しません。

"Pay Anomalies" レポートを実行して予測を表示した後は、Innovation Service からオプトアウトしないことをお勧めします。オプトアウトすると、この機能が無効になり、データ同期の問題が発生します。

ピープル エクスペリエンス: ユーザー エクスペリエンス機械学習

データ カテゴリ	考慮事項
Workday で生成されたユーザー情報	以下に基づいて、ホームページの"クイック タスク"セクションに推奨タスク 3 件が表示されます。 • テナント全体で発生している傾向。 • 本稼働テナントにおけるユーザー アクティビティ。
ナレッジ マネジメント記事	"ナレッジ マネジメントの記事" カテゴリからテナント内のデータを提供すると、Workday が関連する記事をユーザーに推奨できるようになります。
検索クエリー	"検索クエリー" カテゴリからテナント内のデータを提供すると、Workday 検索を使用した際に、より関連性が高く、パーソナライズされた検索結果を提供できます。

支出管理: 支出管理の機械学習 GA 機能

データ カテゴリ	考慮事項
支出取引データ	• 発注書のサポートが追加される前にオプトインした場合、"Opt In to Additional Data"チェックボックスが表示されます。発注書の候補についてデータ コントリビューションを行う場合は、このチェックボックスをオンにします。

データ カテゴリ	考慮事項
	データ コントリビューションをオプトアウトすると、2 週間以内にデータが消去されます。

Related Information

Examples

[Workday Community: Workday Innovation Services](#)

FAQ:Innovation Services追加条項 (ISA) からユニバーサル メイン サブスクリプション契約 (UMSA) への移行について

- Innovation Services のレポートとセキュリティ ドメインにアクセスできなくなっているのはなぜですか？
- ISA で行ったように、UMSA でもWorkday のAI 機能にオプトイン必要がありますか？
- ISA で有効にした機能が UMSA の下でも有効になっていることを検証するにはどうすればよいですか？
- ISA で有効になっているサードパーティ インテグレーションが UMSA で有効になっていることを検証するにはどうすればよいですか？
- インテリジェント アプリケーション機能のデータ提供は、UMSA の下でデフォルトで有効になっていますか？
- Workday AI 機能のデータ提供をオプトアウトにはどうすればよいですか？
- UMSA の下、AI 機能のセキュリティ設定はどのように変更されますか？
- Workday がAI 機能に使用する具体的なデータはどうすればよいですか？
- Workdayまたは更新された AI 機能については、どのように通知されますか？
- Media Cloud補遺情報既存のコンテンツ (SCORMや AICC ファイルなど) は引き続き機能しますか？
- Workday ラーニングについてどのような設定をレビューする必要がありますか？
- サブスクリプション管理のサポート リクエスト (新しいライセンスなど) を送信するにはどうすればよいですか？

Innovation Services のレポートとセキュリティ ドメインにアクセスできなくなっているのはなぜですか？	ユニバーサル メイン サブスクリプション契約 (UMSA) に署名すると、Innovation Services を管理するためのレポート、タスク、セキュリティ ドメインが、Workday Workday (人工知能) 機能を管理するためのものに置き換えられます。を参照 概念: 汎用メイン サブスクリプション契約の顧客に対する Workday AI 例: " Innovation Services and Data Selection Opt-In " レポート (セキュリティ保護された (されている、済の))は"<i>Manage: Innovation Services</i> "ドメイン) を使用してWorkday AI 機能を管理するのではなく、" Data Contribution for Workday AI" レポート ("<i>Manage: Data</i>"にセキュリティ権限セキュリティ保護された (されている、済の)) を使用します"<i>ML Features</i>"および " <i>View: Data for ML Features</i> " ドメイン) UMSA のお客様は、Innovation Servicesに関するすべての情報を無視できます。
---	---

Innovation Services追加条項 (ISA) で行った場合に、UMSA でもWorkday のAI 機能にオプトイン必要がありますか？	ほとんどの AI とサードパーティのインテグレーション機能は、UMSA に基づいて自動的に利用可能になります。 これらの機能を管理するには、を参照してください 汎用メイン サブスクリプション契約のお客様に対する Workday AI データの提供の管理 -
ISA で有効にした機能が UMSA の下でも有効になっていることを検証するにはどうすればよいですか？	"Data Contribution for Workday AI"レポート (セキュリティ保護された (されている、済の)"<i>Manage: Data for ML Features</i>"および"<i>View: Data for ML Features</i>" ドメイン) にアクセスして、UMSA に基づいて有効になっているWorkday AI 機能をレビューし、デフォルト設定が組織のニーズを満たしていることを確認します。 機能の有効化の管理に関する手順については、次を参照してください: 汎用メイン サブスクリプション契約のお客様に対する Workday AI データの提供の管理 - 機能を管理する際の影響に関する考慮事項は、次を参照してください: 参考: Workday AI データの提供 -
ISA で有効になっているサードパーティ インテグレーションが UMSA で有効になっていることを検証するにはどうすればよいですか？	Innovation Servicesを使用したインテグレーションを検証するには、"すべてのインテグレーションシステム"レポート (セキュリティ保護された (されている、済の)" <i>Integration Reports</i> "ドメイン) にアクセスして、ステータスを確認します。
インテリジェント アプリケーション機能のデータ提供は、UMSA の下でデフォルトで有効になっていますか？	インテリジェント アプリケーション機能のデータ提供は、Workdayで有効になっています。
Workday AI 機能のデータ提供をオプトアウトにはどうすればよいですか？	データ提供を無効にする場合は、"Data Contribution for Workday AI"レポート (セキュリティ保護された (されている、済の)"<i>Manage: Data for ML Features</i>"および "<i>View: Data for ML Features</i>" ドメイン) を使用して、特定の製品ラインまたは個々の機能からオプトアウト。 Note: - インテリジェント アプリケーションでデータ提供が不要な場合は、無効にするものではありません。 - 一部の SKU (Peakon や HiredScore など) では、このレベルのデータ提供を無効にする能力が内定いない場合があります。
UMSA の下、AI 機能のセキュリティ設定はどのように変更されますか？	セキュリティ ドメインが更新されWorkdayた。関連するセキュリティ グループを有効にし、"<i>Manage: Data for ML Features</i>"ドメインと"<i>View: Data for ML Features</i>" ドメインに追加したことを確認する必要があります。

	これらのドメインは、以前の <i>"Manage: Innovation Services"</i> ドメインを置き換えます。
Workday が AI 機能に使用する具体的なデータはどうすればよいですか？	"Data Contribution for Workday AI" レポートで "View Data Collectioned" をクリック (セキュリティ保護された (されている、済の) は <i>"Manage: Data for ML Features"</i> ドメインと <i>"View: Data for ML Features"</i> ドメイン) をクリックして、これらの詳細にアクセスします。
Workday または更新された AI 機能については、どのように通知されますか？	AI 機能の今後の変更にに関する通知を有効にしている場合、新規または更新された AI 機能がプレビュー テナントおよび本稼働テナントに提供されるまでに、30Workday に通知が送信されます。を参照 ステップ: AI 機能データ提供の通知の設定 -
Media Cloud 補遺情報既存のコンテンツ (SCORM や AICC ファイルなど) は引き続き機能しますか？	はい。既存のパッケージ コンテンツは引き続き機能します。法的および契約上の条件が、古い補遺情報から、UMSA の下のプラットフォームと製品拡張機能内の関連する条件に移行しました。
Workday ラーニングについてどのような設定をレビューする必要がありますか？	サードパーティのコンテンツを使用する場合は、コンテンツが正しく起動されるように、受講者名の設定を確認する必要があります。 UMSA に移行した後、 "テナント設定の編集 - HCM" タスクにアクセスし、 "サードパーティ コンテンツ プロバイダに受講者名を送信" チェックボックスをオンにします。 ステップ: ラーニングのパッケージ コンテンツの設定を参照してください。
サブスクリプション管理のサポート リクエスト (新しいライセンスなど) を送信するにはどうすればよいですか？	Workday Community で、新しいライセンスなどのサブスクリプション管理リクエストをカスタマーサクセス リクエストとして転送する。